

CL6708MW

日本語版ユーザーマニュアル



本ドキュメントについて

本書は ATEN ジャパン株式会社において、CL6708MW 取り扱いの便宜を図るため、英語版ユーザーマニュアルをローカライズしたドキュメントです。

製品情報、仕様はソフトウェア・ハードウェアを含め、予告無く改変されることがあり、本日本語版ユーザーマニュアルの内容は、必ずしも最新の内容でない場合があります。また製品の不要輻射仕様、各種安全規格、含有物質についての表示も便宜的に翻訳して記載していますが、本書はその内容について保証するものではありません。

製品をお使いになるときは、英語版ユーザーマニュアルにも目を通し、その取扱方法に従い、正しく運用を行ってください。詳細な製品仕様については英語版ユーザーマニュアルの他、製品をお買い上げになった販売店または弊社テクニカルサポート窓口までお問い合わせください。

ATEN ジャパン株式会社

技術部

TEL :03-5615-5811

MAIL :support@atenjapan.jp

2016 年 1 月 19 日

ファームウェア Ver. 1.0.081 版

ユーザーの皆様へ

本マニュアルに記載された全ての情報、ドキュメンテーション、および製品仕様は、製造元である ATEN International により、予告無く変更されることがあります。製造元 ATEN International は、製品および本ドキュメントに関して、品質・機能・商品性および特定の目的に対する適合性について、法定上の、明示的または黙示的であるかを問わず、いかなる保証もいたしません。

弊社製品は一般的なコンピューターのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティシステム、放送システム、医療システム等における可用性への要求を必ずしも満たすものではございません。

キーボード、マウス、モニター、コンピューター等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。

本製品および付属のソフトウェア、ドキュメントの使用によって発生した装置の破損・データの損失等の損害に関して、直接的・間接的・特殊な事例・付帯的または必然的であるかを問わず、弊社の損害賠償責任は本製品の代金相当額を超えないものとします。

製品をお使いになる際には、製品仕様に沿った適切な環境、特に電源仕様についてはご注意のうえ、正しくお使いください。

ATEN ジャパン製品保証規定

弊社の規定する標準製品保証は、定められた期間内に発生した製品の不具合に対して、すべてを無条件で保証するものではありません。製品保証を受けるためには、この『製品保証規定』およびユーザーマニュアルをお読みになり、記載された使用法および使用上の各種注意をお守りください。

また製品保証期間内であっても、次に挙げる例に該当する場合は製品保証の適用外となり、有償による修理対応といたしますのでご注意ください。

- ◆ 使用上の誤りによるもの
- ◆ 製品ご購入後の輸送中に発生した事故等によるもの
- ◆ ユーザーの手による修理または故意の改造が加えられたもの
- ◆ 購入日の証明ができず、製品に貼付されている銘板のシリアルナンバーも確認できないもの
- ◆ 車両、船舶、鉄道、航空機などに搭載されたもの
- ◆ 火災、地震、水害、落雷、その他天変地異、公害、戦争、テロリズム等の予期しない災害によって故障、破損したもの
- ◆ 日本国外で使用されたもの
- ◆ 日本国外で購入されたもの

【製品保証手順】

弊社の製品保証規定に従いユーザーが保証を申請する場合は、大変お手数ですが、以下の手順に従って弊社宛に連絡を行ってください。

(1) 不具合の確認

製品に不具合の疑いが発見された場合は、購入した販売店または弊社サポート窓口にご連絡の上、製品の状態を確認してください。この際、不具合の確認のため動作検証のご協力をお願いすることがあります。

(2) 本規定に基づく製品保証のご依頼

(1)に従い確認した結果、製品に不具合が認められた場合は、本規定に基づき製品保証対応を行います。製品保証対応のご依頼をされる場合は、RMA 申請フォームの必要項目にご記入の上、『お客様の製品購入日が証明できる書類』を用意して、購入した販売店までご連絡ください。販売店が不明な場合は、弊社までお問い合わせください。

(3) 製品の発送

不具合製品の発送は宅配便などの送付状の控えが残る方法で送付してください。

【製品保証期間】

製品保証期間は通常製品/液晶ディスプレイ搭載製品で異なります。詳細は下記をご覧ください。

①通常製品	製品納品日～30日	初期不良、新品交換※1
	31日～3年間	無償修理
	3年以上	有償修理※2
②型番 CL からはじまる LCD 搭載製品のみ	製品納品日～30日	初期不良、新品交換※1
	31日～2年間	無償修理
	3年目以降	有償修理※2

※1…製品購入日から30日以内に確認された不具合は初期不良とし、新品交換を行います。初期不良の場合の送料は往復弊社にて負担いたします。

※2…有償修理の金額は別途製品を購入された販売店までお問い合わせください。

※ケーブル類、その他レールキット等のアクセサリ類は初期不良の際の新品交換のみ、承ります。

※EOL (生産終了)が確定した製品については、初期不良であっても無償修理対応とさせていただきます。また EOL 製品の修理に関して、上記無償修理期間中であっても、部材調達の都合等により修理不可になる可能性がございます。そのような場合には、機能同等品による良品交換のご対応となる可能性がございます。また、EOL 製品の型番や、修理可否、後継機種については、随時情報更新を行っておりますので、弊社 Web ページにて最新情報をご確認ください。

※製品保証期間の延長や故障時の代替品などの保証オプションについては、弊社 Web ページをご確認ください。

【補足】

- ・本規定は ATEN 製品に限り適用します。
- ・ケーブル類は初期不良対応に準じます。
- ・初期不良による新品交換の場合は、ATEN より発送した代替品の到着後、5 営業日以内に不具合品を弊社宛に返却してください。返却の予定期日が守られない場合は弊社から督促を行います。また、それにも係わらず不具合品が返却されない場合は、代替機相当金を販売代理店経由でご請求いたします。
- ・ラベルの汚損や剥がれなどにより製品のシリアルナンバーが確認できない場合は、すべて有償修理とさせていただきます。

【免責事項】

1. 弊社製品は映像関連システムやコンピューターのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。しかし、使用環境等によってはその機能が制限されることがあります。弊社では、ご購入前に弊社製品をお試しいただける評価機貸出サービスが無償でご提供しております。評価機貸出サービスに関するお問い合わせは、弊社代理店または弊社 Web サイト(<http://www.aten.com/jp/ja/>)内の「お問い合わせ」フォームをご利用ください。
2. キーボード、マウス、モニター、コンピューター等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。
3. 他社製品のKVMスイッチ、キーボード・マウスコンバーター、キーボード・マウスエミュレーター、KVM エクステンダー等との組み合わせはサポート対象外となりますが、お客様で自己検証の上であれば、使用を制限するものではありません。
4. 製品に対する保証は、日本国内で使用されている場合のみ対象とさせていただきます。
5. 製品やサービスについてご不明な点がある場合は、弊社技術部門までお問い合わせください。

製品についてのお問い合わせ

製品の仕様や使い方についてのお問い合わせは、下記窓口または製品をお買い上げになった販売店までご連絡ください。

購入前のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 営業部 TEL:03-5615-5810 MAIL:sales@atenjapan.jp
購入後のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 技術部 TEL :03-5615-5811 MAIL :support@atenjapan.jp

目次

ユーザーの皆様へ	i
ATEN ジャパン製品保証規定	ii
製品についてのお問い合わせ	v
EMC 情報	4
RoHS.....	4
SJ/T 11364-2006	5
安全にお使い頂くために.....	6
全般	6
ラックマウント	8
同梱品.....	9
本マニュアルについて.....	10
マニュアル表記について.....	11
第1章 はじめに.....	12
概要	12
特長	13
システム要件.....	15
セカンドコンソール.....	15
コンピューター	15
ケーブル	15
OS.....	16
製品各部名称	17
フロントパネル	17
リアパネル.....	20
第2章 セットアップ方法.....	21
概要.....	21
セットアップの前に.....	21
ラックマウントキットを使った取付方法	22
イージーセットアップラックマウントキットを使った取付方法	24
接地方法.....	28
単体構成でのセットアップ	29
ケーブル接続図.....	31

コンソールケーブルの接続方法	31
KVM ケーブルの接続方法.....	31
カスケード接続のセットアップ	32
第 3 章 基本操作.....	34
コンソールを開く	34
コンソールを閉じる.....	35
操作上の注意事項	36
シャットダウンと再起動.....	37
LCD OSD 設定.....	38
LCD ボタン	38
LCD 調整設定.....	39
ホットプラグ	40
KVM ポートのホットプラグ	40
ポート切替.....	40
手動によるポート切替	40
ポート ID の割り当て	41
第 4 章 OSD 操作.....	42
OSD 概要.....	42
OSD ログイン	42
OSD ホットキー	42
製造番号.....	43
OSD メイン画面.....	44
OSD メイン画面の項目	45
OSD ナビゲーション.....	45
OSD 機能.....	46
F1:GOTO	46
F2: LIST.....	47
F3:SET	48
F4:ADM.....	51
F5:SKP	56
F6:BRC	57
F7:SCAN	58
F8:LOUT	59
第 5 章 キーボードによるポート操作.....	60
ホットキーによるポート操作.....	60
ホットキーモードの起動.....	60

[NumLock]キーとマイナスキーの組み合わせを使用する場合	60
[Ctrl]キーと[F12]キーの組み合わせを使用する場合.....	61
アクティブなポートの選択.....	62
オートスキャンモード	63
オートスキャンの起動.....	63
スキップモード.....	64
キーボード/マウスのリセット.....	65
ホットキービープ音の設定.....	65
クイックホットキーの切替.....	66
OSD ホットキーの設定.....	66
ポート OS の設定.....	67
デフォルト値のリストア.....	67
ホットキーモード一覧表	68
第 6 章 キーボードエミュレーション	69
Mac キーボード.....	69
Sun キーボード	70
第 7 章 ファームウェアアップグレード ユーティリティ	71
はじめに.....	71
ファームウェアアップグレードパッケージのダウンロード.....	71
ファームウェアアップグレードの準備	72
アップグレードの開始.....	73
アップグレード成功.....	75
アップグレード失敗.....	75
ファームウェアアップグレードのリカバリー.....	76
付録.....	77
製品仕様.....	77
接続台数一覧表	80
CL6708MW に対応 8 ポート KVM スイッチを接続した場合.....	80
対応 KVM スイッチ	80
工場出荷時におけるデフォルト設定	81
トラブルシューティング	82

EMC 情報

FCC(連邦通信委員会)電波干渉声明

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則の Part15 に準拠したデジタル装置 Class A の制限事項を満たして設計され、検査されています。この制限事項は、商業目的の使用において、有害な障害が発生しないよう、基準に沿った保護を提供する為のものです。この操作マニュアルに従わずに使用した場合、本製品から発生するラジオ周波数により、他の通信機器に影響を与える可能性があります。また、本製品を一般住宅地域で使用した場合、有害な電波障害を引き起こす可能性もあります。その際には、ユーザーご自身の負担で、その障害を取り除いてください。

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則の Part15 のデジタル装置 Class A の規定に準拠しています。動作は次の2つの条件を前提としています。(1)本製品による有害な干渉が発生しない。(2)本製品は、予想外の動作を引き起こす可能性のある干渉を含め、受信した干渉をすべて受け入れる。

FCC による注意:本コンプライアンスに対する責任者による明確な承認を得ていない変更または改良を行った場合は、ユーザーの本装置を操作する権利を無効とします。

CE による注意:本製品は Class A に準拠した製品です。本製品をご家庭で使用した場合、電波干渉を引き起こす可能性があります。その際は、ユーザーご自身にて、適切な処置を行ってください。

RoHS

本製品は『電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会および理事会指令』、通称 RoHS 指令に準拠しております。



SJ/T 11364-2006

The following contains information that relates to China.

部件名称	有毒有害物质或元素					
	铅	汞	镉	六价铬	多溴联苯	多溴二苯醚
电器部件	●	○	○	○	○	○
机构部件	○	○	○	○	○	○

- : 表示该有毒有害物质在该部件所有均质材料中的含量均在SJ/T 11363-2006规定的限量要求之下。
- : 表示符合欧盟的豁免条款, 但该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出SJ/T 11363-2006的限量要求。
- ×: 表示该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出SJ/T 11363-2006的限量要求。

安全にお使い頂くために

全般

- ◆ 本製品は、屋内での使用に限ります。
- ◆ 製品に同梱されるドキュメントは全てお読みください。またドキュメント類は全て保存してください。また、弊社 Web サイトに掲載のオンラインユーザーマニュアルもご確認ください。
- ◆ 製品に関する注意・説明に従って取り扱ってください。
- ◆ 落下による事故・製品の破損を防ぐため、設置場所は不安定な面(台車、簡易的なスタンドやテーブル等)を避けるようにしてください。
- ◆ 製品が水に濡れるおそれのあるような場所で使用しないでください。
- ◆ 製品は熱源の近く、またはその熱源の上などで使用しないでください。
- ◆ 製品のケースには必要に応じて通気口が設けられています。通気口のある製品は、安定した運用を行うため、また製品の過熱を防ぐために、開口部を塞いだり覆ったりしないでください。
- ◆ 製品をベッドやソファ、ラグなどの柔らかいものの上に置かないでください。開口部が塞がれ、適切な通気が確保できずに製品が過熱する恐れがあります。
- ◆ 製品にいかなる液体もかからないようにしてください。
- ◆ 電源プラグを電源コンセントから抜く場合は、乾いた雑巾でプラグ周りのホコリを掃除してください。液体やスプレー式のクリーナーは使用しないでください。
- ◆ 製品はラベルに記載されたタイプの電源に接続して運用してください。電源タイプについて不明な場合は、購入された販売店もしくは電気事業者にお問い合わせください。
- ◆ お使いの装置への損傷を避けるためにも、すべての装置を適切に接地するようにしてください。
- ◆ 製品付属の電源ケーブルは安全のために 3 ピンタイプのプラグを使用しています。電源コンセントの形状が異なりプラグを接続できない場合には電気事業者に問い合わせ適切に処置してください。アース極を無理に使用できない状態にしないでください。使用される国/地域の電源形状に従ってください。
- ◆ 電源コードやケーブルの上に物を置かないでください。人が通行するような場所避けて電源コードを設置してください。
- ◆ 電源の延長コードや電源タップを使用する場合は、合計容量とコードまたはタップの仕様が適合していることを確認してください。電源コンセントにつながれている製品全ての合計アンペア数は 15 アンペアを超えないようにしてください。
- ◆ 突然の供給電力不安定や電力過剰・電力不足からお使いのシステムを守るために、サージサプレッサー、ラインコンディショナー、または無停電電源装置(UPS)をご使用ください。
- ◆ システムケーブルや電源ケーブルは丁寧に取り扱いってください。これらのケーブル類の上には

何も置かないようにしてください。

- ◆ 危険な電圧ポイントへの接触やショートによって、発火したり感電したりするおそれがありますので、キャビネットのスロットには何も挿入しないでください。
- ◆ 装置をご自身で修理せず、ご不明な点がございましたら技術サポートまでご相談ください。
- ◆ 下記の現象が発生した場合、コンセントをはずして技術サポートに修理を依頼してください。
 - 電源コードが破損した。
 - 装置の上に液体をこぼした。
 - 装置が雨や水にぬれた。
 - 装置を誤って落下させた、ないしはキャビネットが破損した。
 - 装置の動作に異変が見られる。(修理が必要です)
 - 製品マニュアルに従って操作しているにもかかわらず、正常に動作しない。
- ◆ 修理が必要となる故障が発生するおそれがありますので、製品マニュアルに従って操作してください。
- ◆ 「UPGRADE」と書かれた RJ-11 コネクタを公衆通信網に接続しないようにしてください。
- ◆ 本製品をスタッキングする場合、ラックにロックする場合、フレームにネジ止めする場合やその他類似の方法で設置を行う場合には、製品を確実に固定するための安全装置が追加が必要になることがあります。
- ◆ 本製品は固定させて使用するよう設計されているため、通常の動作中には動かさないようにしてください。

ラックマウント

- ◆ ラックでの作業を始める前に、スタビライザーがラックに固定され床に接していること、また、ラック全体が安定した場所に置かれていることを確認してください。作業する前に、シングルラックにフロントとサイドのスタビライザーを取り付けるか、結合された複数のラックにフロントスタビライザーを取り付けてください。
- ◆ ラックにて LCD KVM ドロワーより上のマウント場所にケーブルマネジメントなどの前面に突出している物を取り付ける場合、LCD KVM ドロワーの液晶部分が干渉して、使用に適さない角度までしか開かない可能性があります。そのため、ご使用前に十分な空間や間隔が確保できているかご確認ください。
- ◆ ラックには下から上に向かって、一番重いアイテムから順番に取り付けてください。
- ◆ デバイスを拡張する前にラックが水平で安定していることを確認してください。
- ◆ デバイスレールのリリース用ラッチを押しながらデバイスをスライドさせてラックに出し入れする際にはスライドレールに指を挟まないようご注意ください。
- ◆ デバイスがラックに挿入されたら、慎重にレールをロックする位置までスライドしてください。
- ◆ ラックに供給する AC 電源の分岐回路が過剰供給にならないようご注意ください。ラック全体の電源負荷は分岐回路の 80% を越えないように設定する必要があります。
- ◆ ラックにマウントされたデバイスは、電源タップも含め、すべて正しく接地されていることを確認してください。
- ◆ ラックへの通気を十分に確保してください。
- ◆ 本製品で定められている保管温度を超えないように、ラックが設置されている場所の室温を調節してください。
- ◆ ラックに設置されているデバイスが動作している際に、デバイスを踏んだりデバイスによじ登ったりしないでください。
- ◆ **注意:**ラックにマウントされた LCD KVM ドロワーを柵や作業スペースとして使用しないでください。



同梱品

CL6708MW 製品パッケージには下記のアイテムが同梱されています。

- ◆ CL6708MW フル HD ワイド対応 8 ポート USB DVI KVM ドロワー
(ラックマウントキット取付済み) ×1
- ◆ USB DVI-D KVM ケーブル(型番:2L-7D02U) ×2
- ◆ 電源ケーブル ×1
- ◆ ファームウェアアップグレードケーブル ×1
- ◆ クイックスタートガイド ×1
- ◆ イージーセットアップラックマウントキット(ショート or ロング) ×1

上記のアイテムがそろっているかご確認ください。万が一、欠品または破損品があった場合はお買い上げになった販売店までご連絡ください。

本ユーザーマニュアルをよくお読みいただき、正しい使用方法により、本製品および接続する機器を安全にお使いください。

* 本マニュアルの公開後に、製品仕様が追加される場合があります。最新版は弊社 Web サイトにアクセスしてご確認ください。

本マニュアルについて

このユーザーマニュアルは、CL6708MW に関する情報や使用法について説明しており、取り付け・セットアップ方法、操作方法のすべてを提供します。

マニュアル構成は下記のようになっています。

- 第1章** はじめに: CL6708MW を紹介します。特長、機能概要、および製品の各部名称について説明します。
- 第2章** セットアップ: 基本的なハードウェアセットアップの手順から、8 台の KVM スイッチをケーブル接続する方法まで、CL6708MW のセットアップについて説明します。
- 第3章** 基本操作: CL6708MW の機能概要および操作方法について説明します。
- 第4章** OSD 操作: CL6708MW の OSD (オンスクリーンディスプレイ) の詳細内容、および操作方法について説明します。
- 第5章** キーボードによるポート操作: CL6708MW のホットキー操作に関する機能概要および操作手順について説明します。
- 第6章** キーボードエミュレーション: Mac キーボード・Sun キーボードの各エミュレーションについて対応表を用いて説明します。
- 第7章** ファームウェアアップグレードユーティリティ: お使いの CL6708MW のファームウェアを最新のバージョンにアップグレードする方法について説明します。
- 付録** 製品の仕様および関連する技術情報や操作方法について説明します。

マニュアル表記について

[] 入力するキーを示します。例えば[Enter]は**エンター**キーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、[Ctrl + Alt]のように表記してあります。

1. 番号が付けられている場合は、番号に従って操作を行ってください。

◆ ◆印は情報を示しますが、作業の手順を意味するものではありません。

→ 矢印は操作の手順を示します。例えばStart → Runはスタートメニューを開き、Run を選択することを意味します。



重要な情報を示しています。

※本マニュアルに記載されている商品名・会社名等は、各社の商標ならびに登録商標です。

第1章 はじめに

概要

フルHDワイド対応8ポートUSB DVI KVMドローワー CL6708MWは、17.3インチのLEDバックライトのLCDパネルを搭載し、最大8台のコンピューターへのアクセスとこれらのコンピューターの操作を集約できるKVMドローワーです。対応するKVMスイッチを8台カスケード接続することで、最大64台のコンピューターを本製品の配下に置いて操作することができます。さらに、CL6708MWはコンパクトなデザインを特長とし、セカンドKVMコンソール(キーボード、DVIモニター、マウス、スピーカー)のポートをリアパネルに搭載しながら、システムラックに1Uサイズでマウントすることが可能な製品です。

セットアップの作業は、必要となるケーブルを適切なポートに接続するだけですので、簡単で時間もかかりません。製品のセカンドコンソールとコンピューターは、DVIおよびUSBインターフェースの接続に対応しています。CL6708MWは、キーボード入力をダイレクトに受け付けるので、ソフトウェアの設定は必要ありません。コンピューターの切替は、フロントパネルのプッシュボタン操作、ホットキー入力、または、メニュー形式のOSD(オンスクリーンディスプレイ)操作によって、実現できます。

CL6708MWはYUVビデオフォーマットに対応しているため、更に高い互換性で、ソースデバイスからの高精細な信号を取り扱うことができます。同様に、CL6708MWはHDCP対応であるため、一般企業や文教、商業といった様々な環境において、保護されたメディアコンテンツを効果的に活用することができます。そして、さらに便利な機能として、暗い場所でもキーボードやタッチパッドを操作する手元を明るく照らすLED照明を搭載しています。

完全なKVMソリューションとして、CL6708MWは、本体に17.3インチのワイド画面LCDパネルとキーボードおよびマウスコンソールを一体型させ、単体では最大8台、カスケード接続では最大64台のコンピューターをそれぞれ集約します。そして、YUVビデオフォーマットとHDCPに対応し、セカンドコンソール(キーボード、モニター、マウス)用のポートを搭載しています。

特長

- ◆ フル HD 対応 17.3 インチワイド画面 LCD 一体型 8 ポート KVM ドロワー - 1U サイズのコンパクトな筐体
- ◆ 単体で 8 台の DVI シングルリンク対応サーバーの接続および操作可能
- ◆ 1 段階カスケード接続対応 - 対応 KVM スイッチである CS1768 を 8 台接続すれば、最大 64 台のサーバーが接続可能
- ◆ セカンドコンソールポート搭載 - USB、DVI-I(シングルリンク)コネクタ、ステレオミニジャック搭載
- ◆ キーボードやタッチパッドを操作する手元が暗い場合に役立つ LED ライト搭載
- ◆ ポート切替方法 - フロントパネルのプッシュボタン、ホットキー、多言語対応 OSD メニュー
- ◆ ブロードキャスト機能 - 製品配下にあるコンピューターを選択して、コマンドを一斉送信可能
- ◆ 8bit YUV444 フォーマット対応
- ◆ DVI モニター対応 - DVI 準拠
- ◆ ビデオダイナシンク(ディスプレイエミュレーション) - ブート時のディスプレイ問題を回避し、ポート切替時の解像度を最適化する ATEN の独自機能搭載(デジタルビデオソース使用時のみ)
※1
- ◆ HDCP1.4 準拠 - コンテンツ保護のかかった映像のスムーズな再生が可能
- ◆ 解像度 - 最大 1,920×1,080@60Hz、DDC2B 準拠
- ◆ 簡単に取り付けができるイージーラックマウントキット同梱(ショート/ロング選択)
- ◆ 取り付け奥行きはレールキットで調節可能
- ◆ オーディオ対応(スピーカー入力端子および出力端子。スピーカーは内蔵していません。)
- ◆ オートスキャンモード - ユーザーが選択したコンピューターを自動的に切替表示
- ◆ マルチプラットフォーム対応 - Windows、Linux、Mac、Sun
- ◆ コンソールロック機能 - 未使用時にはコンソールドロワーを内側にロック
- ◆ DDC エミュレーション - 各接続コンピューターのビデオ設定はモニターに最適な出力になるように自動調整
- ◆ コンソールマウスポートエミュレーション/バイパス機能対応で、大半のマウスイーターと多機能マウスに対応
- ◆ ファームウェアアップグレード対応
- ◆ Mac/Sun キーボードエミュレーション対応※2,3
- ◆ 多言語 OSD 対応 - 日本語、英語、ドイツ語、中国語(繁体字/簡体字)
- ◆ OADG 109A/JIS 準拠 105 キーボード搭載。Sun キーボードエミュレーション
- ◆ 多言語キーボードマッピング - 日本語、英語(アメリカ/イギリス)、ドイツ語(ドイツ/スイス)、フランス語、スペイン語、中国語(繁体字)、韓国語、スウェーデン語、イタリア語、ロシア語、ハン

ガリー語、ギリシア語対応

-
- 注意:**
1. ビデオダイナシンク機能は、デジタルビデオソースと併用したときのみ、動作します。
 2. PC/AT キーボードでもキーの組み合わせで Sun/Mac キーボードの特殊キー入力が可能です。
-

システム要件

セカンドコンソール

セカンドコンソールには次のハードウェアが必要です。

- ◆ 接続されたコンピューターすべての最大解像度が表示できる DVI モニター
- ◆ USB キーボードおよびマウス

コンピューター

製品に接続して使用するコンピューターには次のハードウェア環境が必要です。

- ◆ DVI-I ビデオグラフィックカード

注意: CL6708MW に搭載されている 17.3 インチ LCD ディスプレイの最大解像度は、1,920×1,080@60Hz です。製品に接続して使用するコンピューターの解像度が、この最大解像度を超えないようご注意ください。

- ◆ USB ポート(1 箇所以上)

ケーブル

標準ケーブル以外のケーブルを使用した場合、接続機器に損傷を与えたり、全体のパフォーマンスを低下させたりする可能性があります。最適な信号の整合性やレイアウトの単純化のために、下表に記載された高品質専用ケーブルを購入されることを推奨いたします。

ケーブル長(m)	型番	備考
1.8	2L-7D02U	DVI-D(シングルリンク)
3.0	2L-7D03U	DVI-D(シングルリンク)
5.0	2L-7D05U	DVI-D(シングルリンク)
1.8	2L-7D02UI	DVI-I(シングルリンク)
3	2L-7D03UI	DVI-I(シングルリンク)

* ケーブルは弊社の販売代理店よりお求めください。

OS

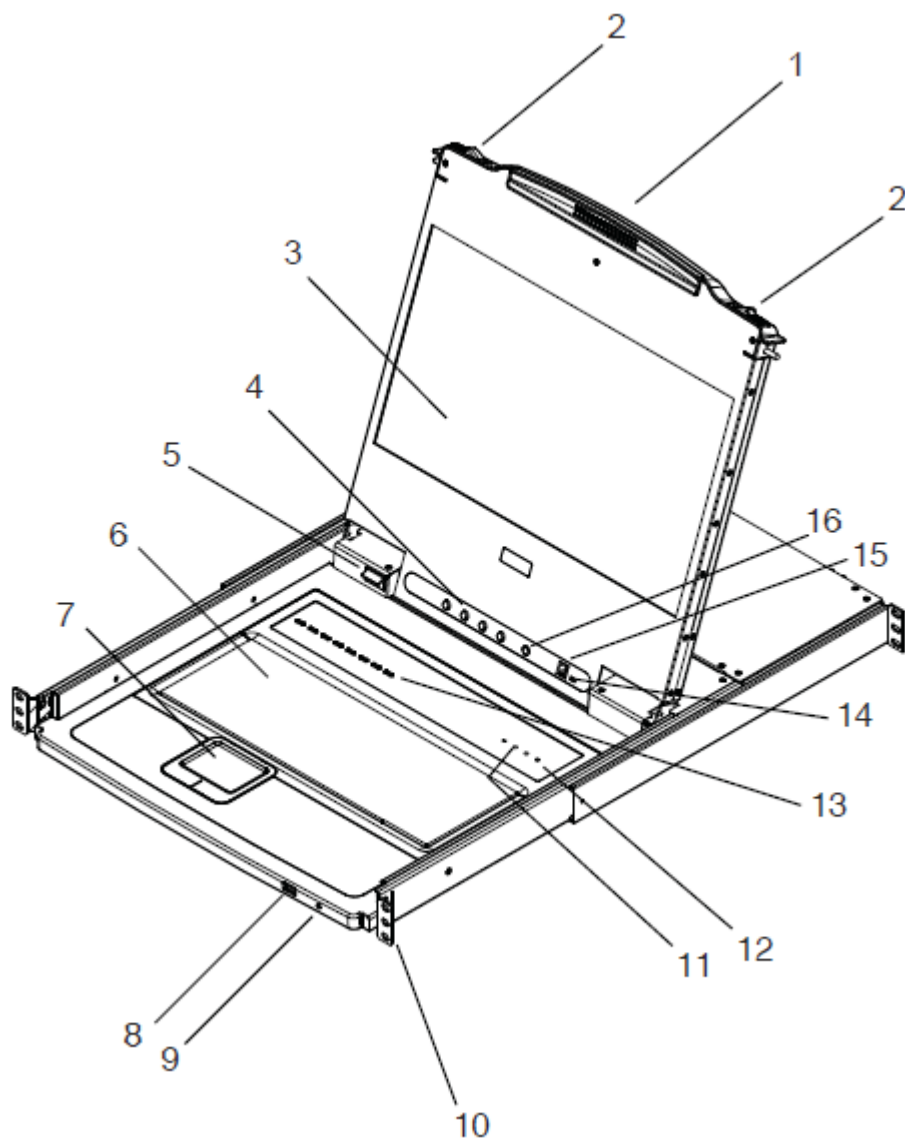
本製品の対応 OS は下表の通りです。

OS		バージョン
Windows		2000 以降
Linux ¹	RedHat	9.0 以降
	SuSE	10 以降
	Debian	3.1 以降
	Ubuntu	7.04 以降
UNIX	AIX	4.3 以降
	FreeBSD	5.5 以降
	Sun	Solaris 8 以降
Novell	Netware	5.0 以降
Mac		OS 9 以降

1 2.6 以前のカーネルでは USB2.0 をサポートしていません。

製品各部名称

フロントパネル

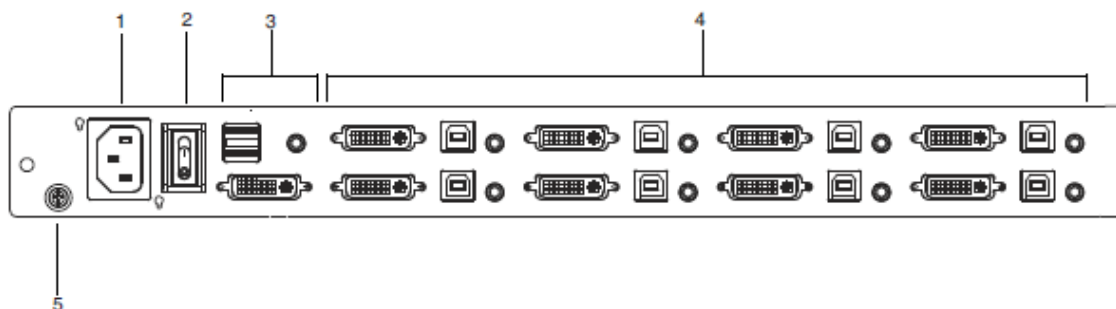


No.	名称	説明
1	上部ハンドル	LCD モジュールを引き出したり、中へ収納したりする際に使用します。コンソールの出し入れについての詳細は p.34「コンソールを開く」を参照してください。
2	モジュールリリース キャッチ	コンソールを引き出すには、この留め金を中へスライドさせて、ロックを解除してください。
3	LCD モジュール	LCD モジュールを引き出した後、カバーを開けるとLCD ディスプレイが使用できます。
4	LCD コントロール	ここに LCD ディスプレイの画像の位置や画質を設定するボタンがあります。詳細は p.38 を参照してください。
5	LED 照明ライト	「EXIT/LIGHT」ボタンを2秒間長押しすると、このLED ライトをON または OFF に切り替えます(デフォルト:ON)。
6	キーボード モジュール	JIS 準拠 105 キーボードです。
7	タッチパッド	標準マウスタッチパッドです。
8	USB ポート	この USB ポートには、コンソールに USB 周辺機器(フラッシュドライブ、CD-ROM ドライブなど)を接続したり、または外付マウスを使用する際に USB マウスを接続したりすることができます。
9	電源 LED	製品本体に電源が入っている場合に点灯(グリーン)します。
10	ラックマウントタブ	製品本体の四隅にはラックマウントタブがあります。詳細は p.22「ラックマウントキットを使った取付方法」を参照してください。
11	Lock LED	[Num Lock]、[Caps Lock]、[Scroll Lock]の LED ランプがここにあります。
12	リセットスイッチ	Lock LED の右側に位置しています。先の細い物でこのピンホール型スイッチを押すとシステムの再起動を実行します。
13	ポート LED/ポート スイッチ	「ONLINE」の LED が点灯した場合は、この LED に対応したポートに接続されたコンピューターに電源が入っており、稼働中であることを表しています。また、グリーン「Selected」の LED が点灯した場合は、この LED に対応したポートに接続されたコンピューターが KVM 操作のために選択されていることを表しています。 KVM を選択しているコンピューターを切り替えるには、切替先となるコンピューターに対応したポートボタンを押してください。

(表は次のページに続きます)

No.	名称	説明
14	ファームウェアアップグレードスイッチ	通常操作時、およびファームウェアアップグレード実行時には、このスイッチを「NORMAL」の位置に合わせてください。ファームウェアアップグレード操作が失敗した場合には、このスイッチを使用してファームウェアアップグレードリカバリーを行います。詳細は、p.76「ファームウェアアップグレードのリカバリー」を参照してください。
15	ファームウェアアップグレードポート	管理者のコンピューターからファームウェアアップグレードデータを転送するのに用いるファームウェアアップグレードケーブルは、こちらの RJ-11 ポートに接続します。
16	LCD ON/OFF ボタン	このボタンを押すと、LCD ディスプレイの電源を ON/OFF にできます。LCD ディスプレイが OFF の時にはこのボタンが点灯します。 注意: このライトはディスプレイのみが OFF であることを示しています。接続された KVM スイッチの状態を表しているではありません。

リアパネル



No.	名称	説明
1	電源ソケット	3 極 AC 電源ソケットです。AC 電源からの電源コード**をここに接続します。
2	電源スイッチ	ロッカースイッチで、CL6708MW の電源を入れたり切ったりします。
3	セカンドコンソール セクション	製品の操作感に柔軟性と利便性を持たせるために、CL6708MW では独立したセカンド KVM コンソールを接続することができます。セカンドコンソールとなる USB キーボード・マウス、DVI モニター、およびオーディオスピーカーのケーブルをここに接続します。
4	KVM ポートセクション	製品同梱の KVM ケーブル (CL6708MW とコンピューターまたは KVM スイッチとの接続用) を、ここに接続します。
5	接地ターミナル	本製品を接地するための接地線をここに接続します。

注意: CL6708MW は 200V の動作に対応していますが、100V 用の電源ケーブルのみ同梱しています。200V 環境にて使用される場合は、お客様にて電源ケーブルをご用意ください。

第2章

セットアップ方法

概要

CL6708MW は、USB インターフェースで動作するように設計された製品です。本製品は、KVM スイッチとコンピューターの間における媒介としての役割を果たす、専用の KVM ケーブルを使用します。この KVM ケーブルは、接続するコンピューターごとに必要となります。本製品で使用できるケーブルは p.15 で説明されているとおり、様々な長さを取りそろえております。お使いの環境に適した KVM ケーブルをお求めの際には、弊社代理店までお問い合わせください。

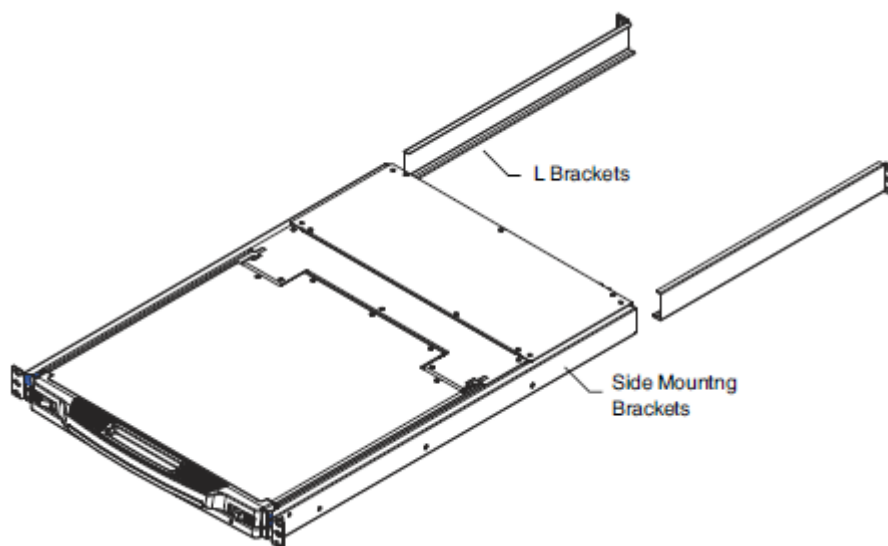
セットアップの前に



1. 機器の設置に際し重要な情報を p.6 に記載しています。作業の前に、必ず目を通してください。
2. 今から接続する装置すべての電源が OFF になっていることを確認してください。コンピューターにキーボード起動機能がついている場合は、ここから電源ケーブルも抜いてください。

ラックマウントキットを使った取付方法

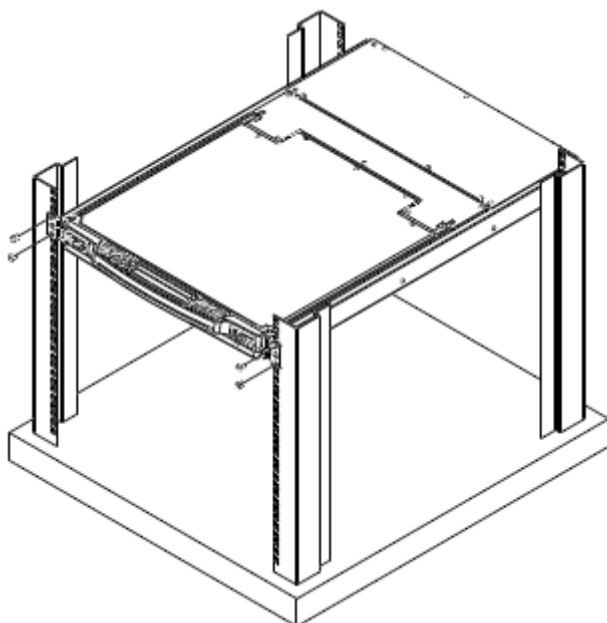
CL6708MW にはラックマウントキットが取り付けられています。このラックマウントキットを使用して製品本体の取付ができるラックの奥行きは 52~85cm です。



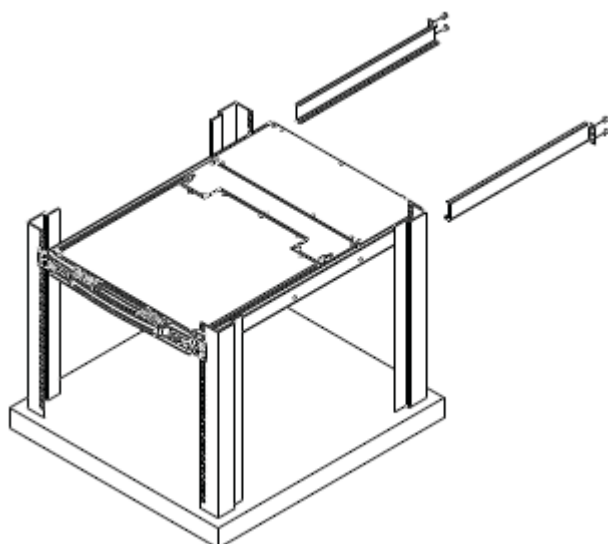
-
- 注意:**
1. 製品のラックへの取付作業は本製品を保持する作業者とネジ止める作業者というように 2 人以上で行うようにしてください。
 2. ラックマウントキットにはネジやケージナットは同梱されていません。追加でネジやケージナットが必要な場合は、ラック販売店にお問い合わせください。
 3. 適切な通気を確保するために製品の両側に少なくとも 5cm 程度、ケーブル取り回しのスペースを確保するために製品リア側に少なくとも 13cm 程度の余裕を設けて設置してください。
 4. 日本国内向けモデルには、イージーセットアップラックマウントキットが同梱されており、イージーセットアップラックマウントキットでの取付を推奨しています。イージーセットアップラックマウントキットの取付方法は p.24 をご参照ください。
-

ラックへの取付は以下の手順で行ってください。

1. 1人がCL6708MWをラックの定位置まで持ち上げて保持し、もう1人がラックにフロントブラケットをゆるくネジ止めしてください。



2. 最初の作業員がCL6708MWを定位置に保持したまま、もう1人の作業員はL型レールを本製品のリア側からブラケットがラックに接触するまで差し込んでください。その後、ラックにL型レールをネジ止めしてください。



3. L型レールが固定されたらフロントブラケットもしっかりとネジ止めしてください。

イージーセットアップラックマウントキットを使った取付方法

イージーセットアップラックマウントキットは、標準で本体に取り付けられているラックマウントキットに比べて非常に簡単に製品のマウント作業ができるように設計されたものです。対応ラックの仕様は下記をご参照ください。

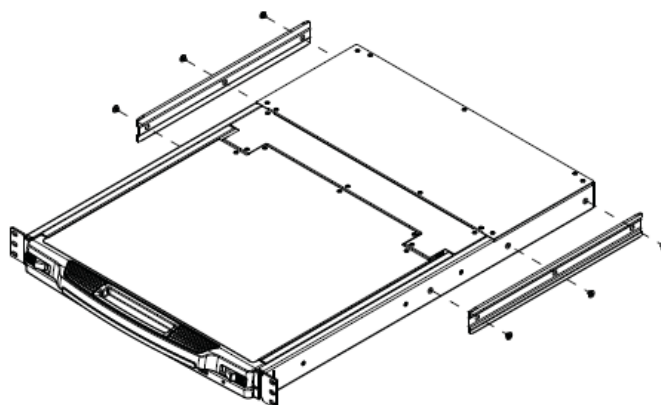
モデル		対応ラック奥行き (取付支柱間の距離)	型番
17.3 インチ LCD モデル	CL6708MW	ショート(42cm～70cm)	CL6708MWJJS
		ロング(68cm～105cm)	CL6708MWJL

注意： ラックマウントキットの対応奥行き表示は、ラック取付支柱間の距離を表しています。実際のラックマウント作業の際には、ラック内寸に対するドロワー本体の奥行きやケーブル取り回しを考慮する必要がありますのでご注意ください。

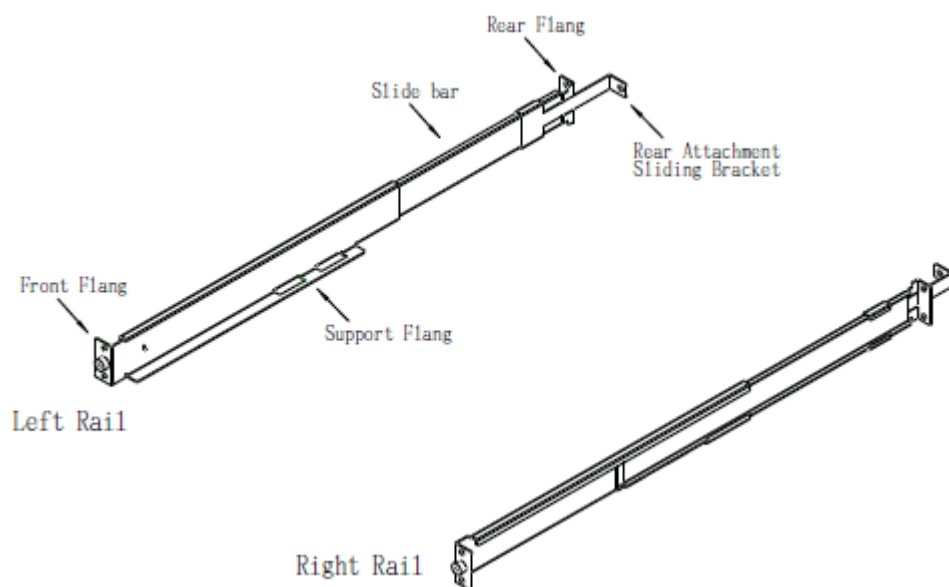
ロングレールキットのラックマウントキットを取り付けるには、同梱のショートレールをロングレールに交換し、p.22「ラックマウントキットを使った取付方法」に記載の作業手順に沿って CL6708MW を取り付けるだけです。

イージーセットアップラックマウントキットを使用する際のマウント作業は下記の手順に従ってください(ショート/ロング共通)。

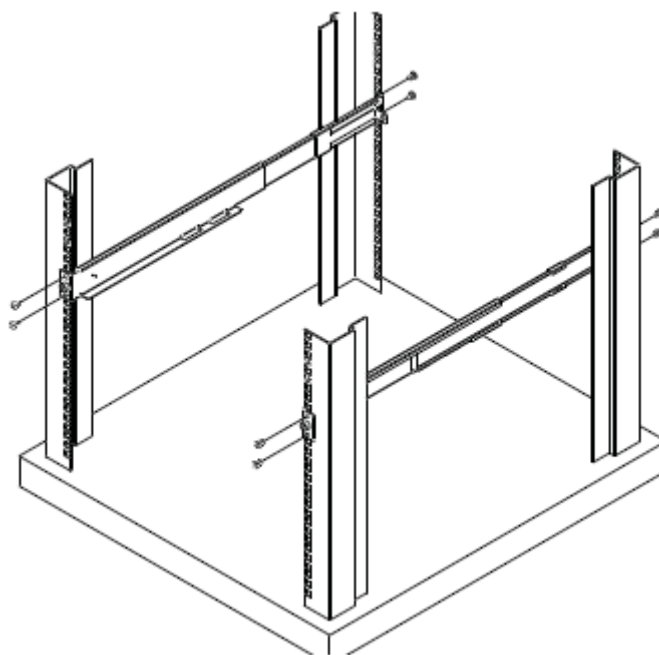
1. CL6708MW の両側から標準 L 型レール(図では表示されていません)とサイドマウントレールを外してください。



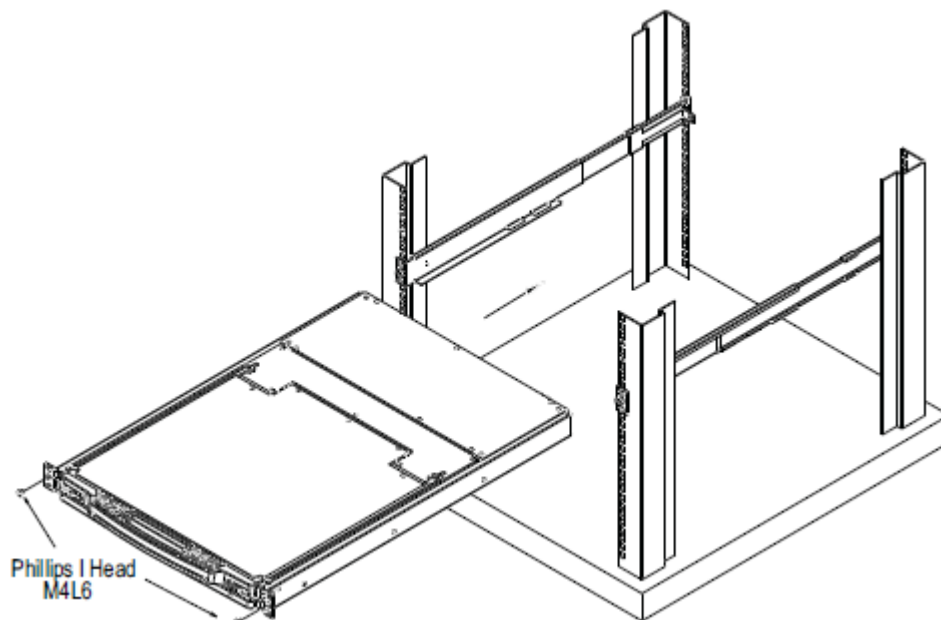
2. ラックの内側に左右のイージーラックマウントキットのレールを取り付けてください。CL6708MWを支えるフランジが入っています。ラックとレールを取り付けるビスやケージナットは本製品に同梱しておりませんので、別途ラックメーカーよりご購入ください。



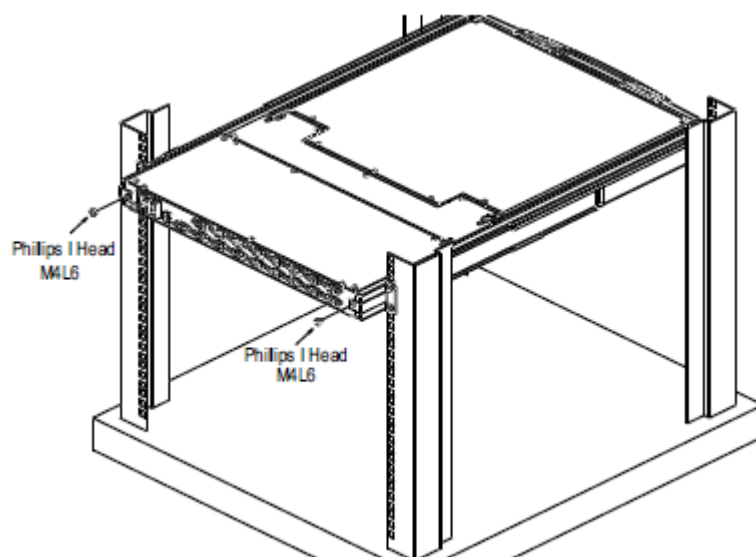
- a) まず、フロントフランジをラックにネジ止めしてください。
b) レールのスライドバーをリアフランジがラックに接触するまでスライドさせた後、リアフランジをラックにネジ止めしてください。



3. サポートフランジの上に CL6708MW をスライドさせてください。本製品に同梱されているネジを使用して本製品のフロントパネルとラックのフロント部分を軽くネジ止めしてください。



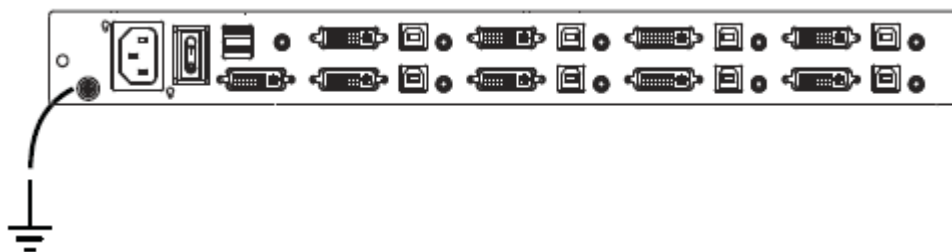
4. リアアタッチメントスライディングブラケットをスライドバーが CL6708MW のリア部分に接触するまでスライドさせた後、本製品に同梱されているネジを使用してスライドバーを本製品のリア部分にしっかりと最後までネジ止めしてください。



5. CL6708MW を何回かスライドさせて出し入れして、本製品が正しい位置に設置され、スムーズに出し入れでき、収納時にロックできることを確認してください(出し入れ方法については、p.34「コンソールを開く」を参照)。
6. CL6708MW が正しい位置に設置され、操作も正しく行えることが確定したら、手順 3 で軽くネジ止めしたフロント部分のネジを全てしっかりとネジ止めしてください。

接地方法

お使いの装置への損傷を避けるために、使用するすべての装置を適切に接地することは、非常に重要です。本体のグラウンドターミナルと適切な接地物を接地線で接続することで、CL6708MW を接地してください。



単体構成でのセットアップ

製品を単体で使用する場合には、カスケード接続用の KVM スイッチは必要ありません。p.30 の接続図における番号は、下記の手順番号に対応しています(手順2はp.31も参照)。この方法でセットアップを行う場合は、次の手順に従って作業を行ってください。

1. 接地線の片方の端を CL6708MW に、もう片方の端を適切な接地物にそれぞれ接続して、製品本体を接地してください。

注意: この手順は省略しないでください。適切な接地をすることで電圧変化や静電気による機器の破損防止に一定の効果があります。

2. CL6708MW にセカンドコンソール用のデバイスを接続して使用する場合は、キーボード、モニター、マウスを、製品本体のセカンドコンソールセクションにおける対応ポートに、それぞれ接続してください(p.31「コンソールケーブルの接続方法」参照)。

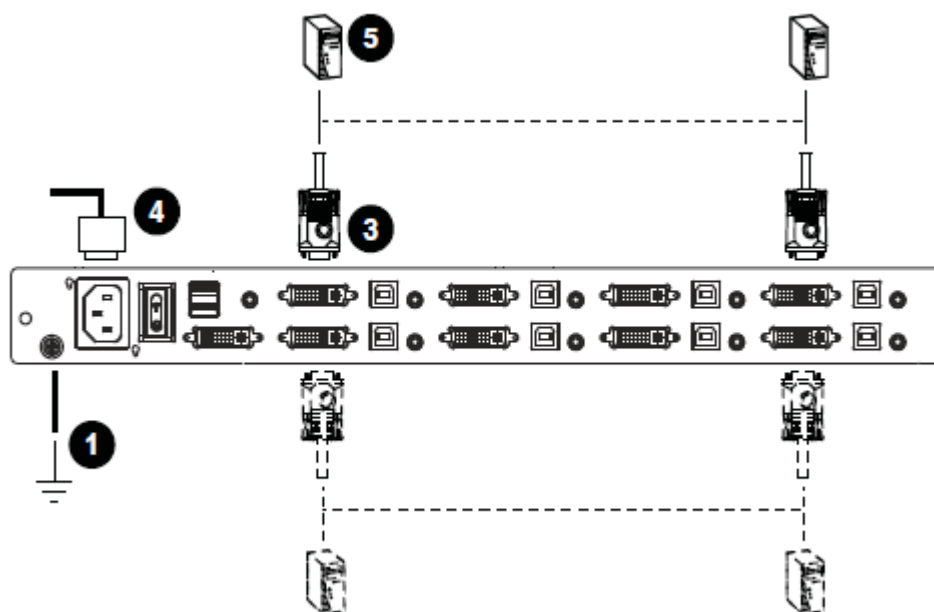
注意: 1. セカンドコンソールの接続はオプションです。
2. CL6708MW では USB タイプのキーボードおよびマウスのみをサポートします。

3. 製品に接続するコンピューターそれぞれに対し、KVM ケーブル(p.15「ケーブル参照」)で、コンピューターのキーボード、モニター、マウスの各ポートと、製品本体のKVMポートを接続してください。接続方法については p.31「ケーブル接続図」をご参照ください。

4. 電源ケーブルで CL6708MW の電源ソケットと AC 電源を接続してください。

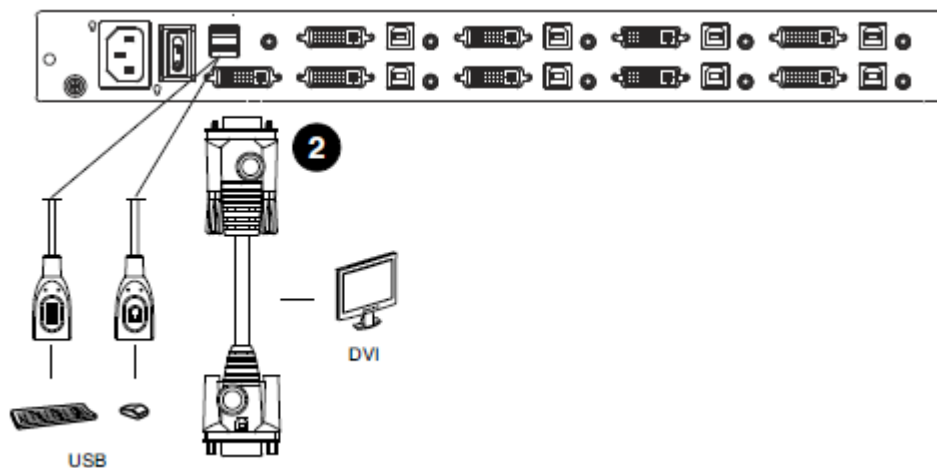
ここまでの手順で作業したら、CL6708MW に電源を入れてください(詳細は p.37「シャットダウンと再起動」参照)。CL6708MW に電源が入ったら、製品に接続しているコンピューターにも電源を入れてください。

単体構成 接続図



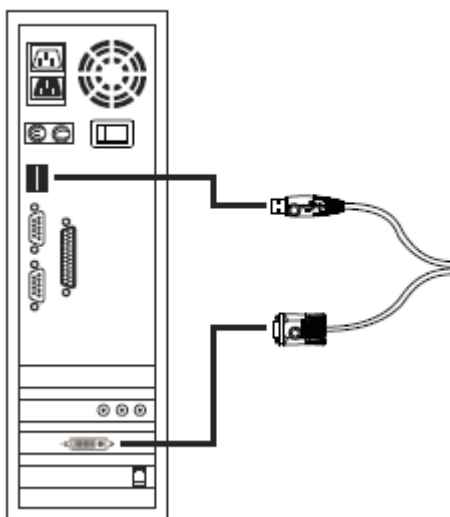
ケーブル接続図

コンソールケーブルの接続方法



KVM ケーブルの接続方法

USB KVM Cable Connection



カスケード接続のセットアップ

本製品の最大ポート数を超えるコンピューターを操作したい場合は、最大 8 台の KVM スイッチをカスケード接続することで対応が可能です (p.80「対応 KVM スイッチ」参照)。カスケード接続によって、最大 64 台のコンピューターを一箇所のコンソールから操作することができます。接続するコンピューターの数と、その台数のコンピューターを操作するのに必要となる KVM スイッチの台数の関係については、付録部分の p.80 に記載されています。

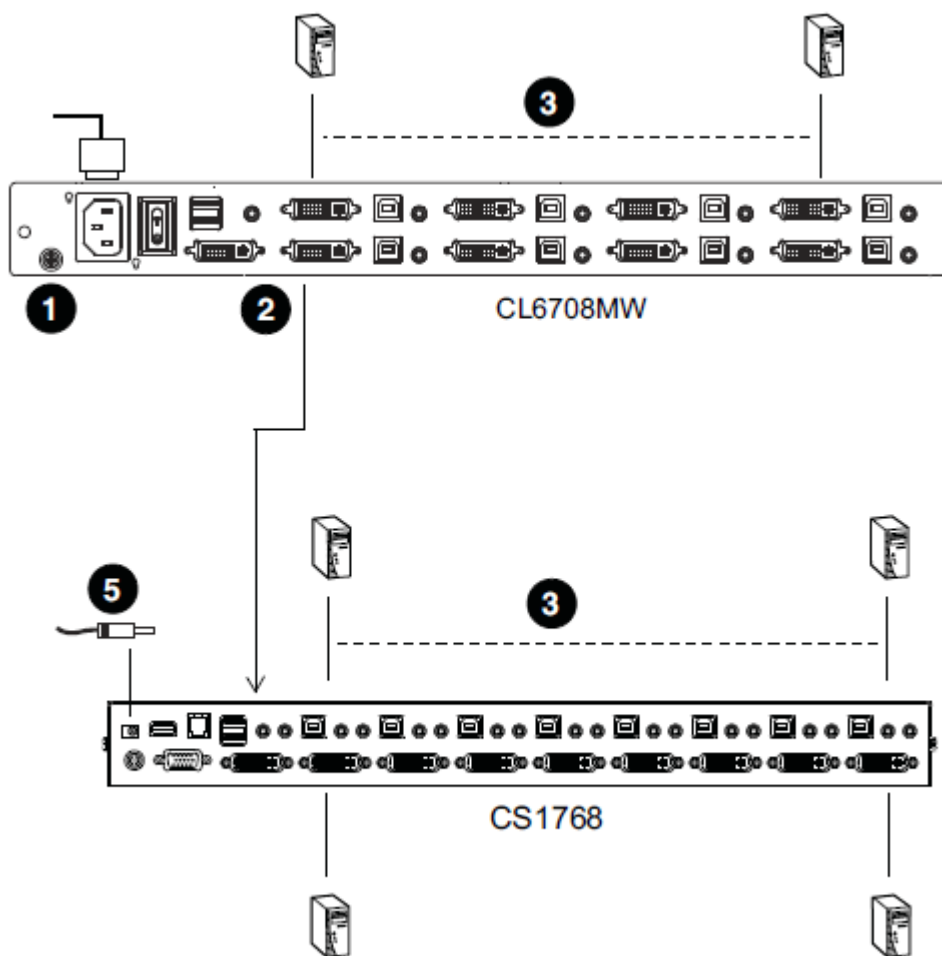
製品をカスケード接続の機器構成でセットアップする場合は、次の手順に従って作業を行ってください。

1. マスターとなる CL6708MW に接地を施してください。また、これから接続しようとしているすべてのコンピューターの電源が切られていることを確認してください。
2. KVM ケーブルで、マスターとなる CL6708MW の KVM ポートと、2 段階目となるユニット^{*1}のコンソールポートを接続してください。
3. DVI KVM ケーブル (p.15「ケーブル」のセクションに記載) で、CL6708MW 、または、これにカスケード接続されている KVM スイッチのうちのどちらかのユニットにある KVM ポートと、接続しようとしているコンピューターのキーボード、モニター、マウスの各ポートを接続してください。
4. この機器構成にカスケード接続で追加する KVM スイッチが他にもある場合は、上記の手順を繰り返してセットアップを行ってください。
5. デバイスに電源を入れる場合は、まず 2 段階目のユニットすべてに電源を入れ、2 段階目のユニットに電源が入っていることを確認してから 1 段階目のユニットに電源を入れてください。すべてのユニットに電源が入ったら、ユニットに接続されているコンピューターに電源を入れることができます。

注意: 1. CL6708MW は本体の LCD パネルとキーボードとマウスがコンソールとして使用されますので、2 段階のカスケード接続の機器構成において、必ず 1 段階目のユニットとしてセットアップされます。また、2 段階目のユニットとして使用する KVM スイッチには、カスケード接続可能なセカンドコンソールがある機種をお使いください。

-
2. 構成によっては、CL6708MW の電源を投入後、解像度が正しく設定できない場合があります。その際には、KVM 側の「ビデオダイナシク機能」を行ってください。また、サーバーによっては、解像度情報が OS の再起動によって反映されることがあります。
-

2 段階カスケード接続 接続図



第3章 基本操作

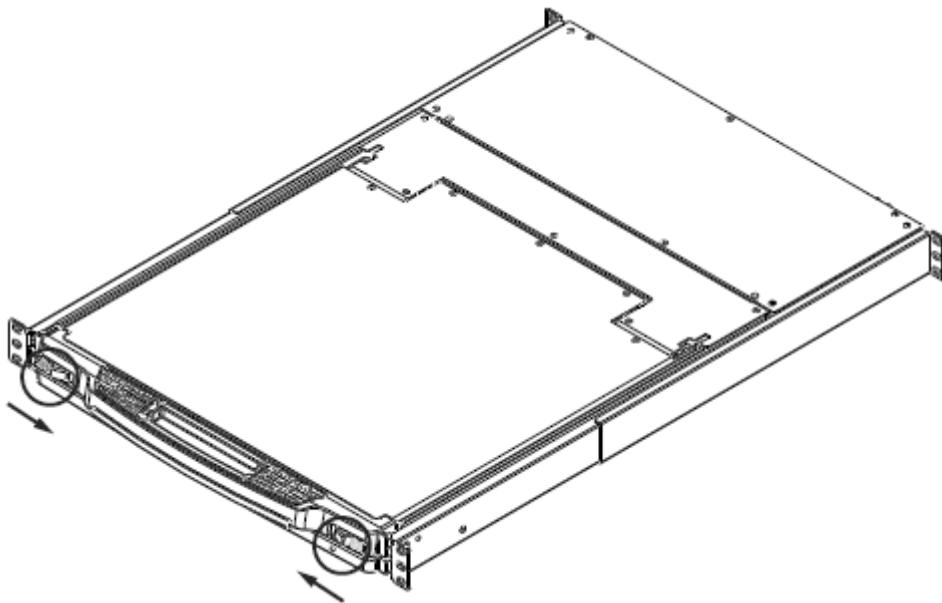
コンソールを開く

CL6708MW の画面部分は、上部パネルに取り付けられています。コンソールを使用するには、コンソールモジュール全体を引き出してから、上部パネルを開けてください。

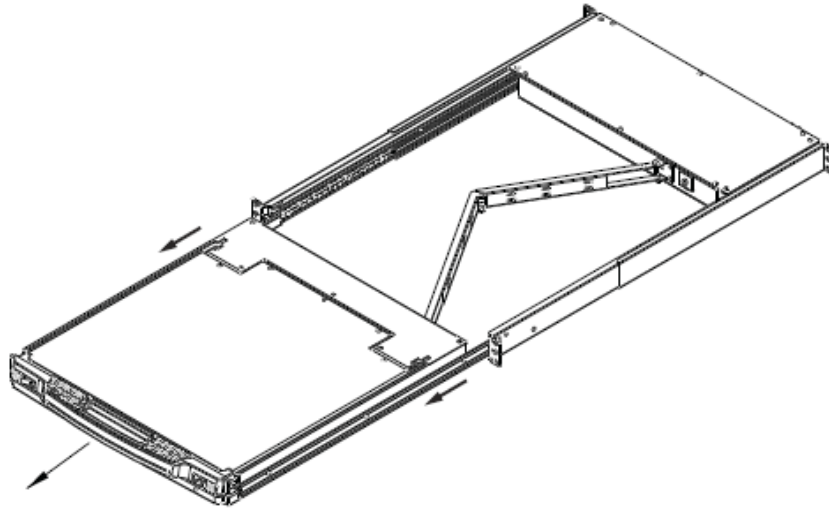
- 注意:**
- ◆ コンソールが誤って外に滑り出さないようにするために、安全措置として、コンソールは「In」の位置でロックされます。コンソールモジュールを引き出す前に、下図のように本製品のフロントパネルにある留め金を内側に押して、ロックを解除するようにしてください。
 - ◆ コンソールを引き出すときには、「カチッ」と音がしてコンソールが固定するまで引いてください。固定せずに使用した場合、思わぬケガをする可能性があります。

コンソール部分を引き出すには、下記の手順に従って操作してください。

1. 両端にあるキャッチを製品本体の内側に向かってスライドさせてください。



2. ハンドルを握ってコンソール部分を手前にスライドさせ、十分に引き出してください。

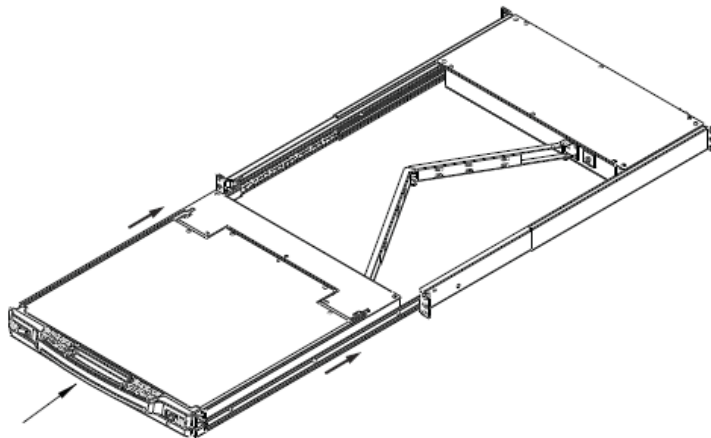


3. 上部パネルを開けてください。

コンソールを閉じる

コンソールモジュールをスライドさせて収納するには、下記の手順に従って操作してください。

1. 上部パネルを閉じてください。
2. コンソールパネル全体が固定されるまで、奥へゆっくりと押してください。



操作上の注意事項



キーボードモジュールの最大積載重量は 30kg です。キーボードモジュールの破損やラック転倒等の事故を防ぐためにも下記のことを守ってください。

	<p>正しい使用方法</p> <p>手を軽くキーボードモジュールに置いて作業する。</p>
	<p>間違った使用方法</p> <ul style="list-style-type: none">◆ キーボードモジュールに体重をかけないでください。◆ キーボードモジュールに重いものを載せないでください。

シャットダウンと再起動

CL6708MW をシャットダウンする必要がある場合は、本体を再起動する前に、下記の手順に従って操作してください。

1. CL6708MW に接続されているすべてのコンピューターをシャットダウンしてください。

注意: キーボード起動機能がついているコンピューターの場合は、電源コードも抜いてください。そうしないと、CL6708MW はコンピューターから給電され続けることになります。

2. 電源から CL6708MW を外してください。

3. 10 秒以上経ってから CL6708MW を電源につないでください。



4. CL6708MW が起動してステーション ID を認識したことが確認されたら、コンピューターの電源を入れてください。

注意: 複数のステーションをシャットダウンしている場合は、最上位のステーションから下位のステーションに向かって順に電源を入れるようにしてください。

LCD OSD 設定

LCD ボタン

LCD の OSD を使用して LCD ディスプレイのセットアップや設定を行うことができます。設定には下表で示した 4 つのボタンが使用されます。

ボタン	機能
MENU	<ul style="list-style-type: none">◆ LCD OSD メニュー機能を使用していない時にこのボタンを押すと、OSD メニュー機能を起動し、メインメニューが表示されます。◆ OSD メニューが表示されている時、このボタンは決定ボタンとして機能します。
	メニューを操作する際に、このボタンを押すと、右または上に移動します。調節を行う際に、このボタンを押すと、値を増やすことができます。
	メニューを操作する際に、このボタンを押すと、左または下に移動します。調節を行う際に、このボタンを押すと、値を減らすことができます。
EXIT/LIGHT	<ul style="list-style-type: none">◆ LCD OSD メニュー機能を使用していない時にこのボタンを押すと、自動調整を実行します。自動調整では、OSD 側で最適な設定値を自動検出して LCD パネルの設定を行います。◆ LCD OSD メニュー機能を使用している時にこのボタンを押すと、現在のメニューをキャンセルし、一つ前にメニューに戻ります。設定が済んだら、このボタンを押して調整メニューを終了してください。◆ メインメニュー機能使用時にこのボタンを押すと、LCD OSD メニューを終了します。◆ このボタンを 2 秒間長押しすると、この LED ライトを ON または OFF に切り替えます(デフォルト:ON)。

LCD 調整設定

LCD OSD メニューの調整設定の詳細は下表の通りです。

設定	説明
Brightness (明るさ)	スクリーンイメージのバックグラウンドの明るさを調整します。
Contrast (コントラスト)	スクリーンイメージのフォアグラウンドのコントラストを調整します。
Phase (フェーズ)	ピクセルジッターまたは水平線のノイズが画面に見える場合、ご使用の LCD のフェーズ設定が正しくない可能性があります。この問題を解決するにはフェーズ設定を調整してください。
Clock (クロック)	画面縦方向の波が見える場合、ご使用の LCD のクロック設定が正しくない可能性があります。この問題を解決するにはクロック設定を調整してください。
H-Position (水平位置)	LCD パネルの表示範囲の横方向の位置を設定します(表示範囲を左右に移動します)。
V-Position (垂直位置)	LCD パネルの表示範囲の縦方向の位置を合わせます(表示範囲を上下に移動します)。
Color Temperature (色温度)	ディスプレイの色温度を調整します。赤みの度合いやカラーバランスが調整できます。「Adjust Color」メニューを選択すると、サブメニューで RGB 値を更に最適な状態に調節することができます。
Language (言語)	OSD メニューに表示される言語を選択します。
OSD Duration (OSD 持続時間)	画面に OSD が表示される時間を設定することができます。OSD への入力がないまま、ここで指定した時間が経過すると、OSD 画面は終了します。
Reset (リセット)	メニューおよびサブメニューで設定したすべての値を工場出荷時のデフォルト値にリセットします。

注意: LCD 設定値を手動で調整する別の方法として、「EXIT/LIGHT」ボタンを押すことで LCD を自動調整して最適な表示を得ることもできます。詳細については、p.38 「EXIT/LIGHT」をご参照ください。

ホットプラグ

CL6708MWはホットプラグ対応製品です。ケーブルの抜き差しだけで、本体をシャットダウンすることなくキーボードやマウス等の取り付け・取り外しを行うことが可能ですが、ホットプラグ機能が正しく動作するように下記の手順に従ってお使いください。

KVM ポートのホットプラグ

KVM ポートを変更した後、OSD メニューに新しいポートの情報設定を反映させるためには、手動で OSD を再設定する必要があります。詳細に関しては、p.48 の「F3:SET」および p.51 の「F4:ADM」の項にあるポート設定の内容をご参照ください。

注意: お使いのコンピューターの OS がホットプラグ未対応である場合、CL6708MW のホットプラグ機能が正しく動作しない場合があります。

ポート切替

CL6708MW に接続されているコンピューターには、手動、OSD、ホットキーの3つの方法でアクセスすることができます。手動によるポート切替の方法は下記のセクションで説明します。また、OSD の操作方法については第4章で、また、ホットキーの操作方法については第5章でそれぞれ詳しく説明しますので、そちらをご参照ください。

手動によるポート切替

CL6708MW に接続されている任意のコンピューターに KVM 操作を切り替えるには、キーボードモジュールにあるポート LED/ポートスイッチを使用します。

ポート ID の割り当て

製品配下にあるコンピューターには、それぞれ固有のポート ID が割り振られます。これらのコンピューターには、それぞれが接続しているポートに割り当てられているポート ID を指定することで、直接切替を行うことができます。切替方法には、OSD (p.42 参照) とホットキーによるポート切替方法 (p.60 参照) の 2 種類があります。

- ◆ マスターユニット (CL6708MW) に接続されているコンピューターには、それが接続されている KVM ポートナンバーに対応した 2 桁の ID が割り当てられます。
- ◆ スレーブユニットに接続されているコンピューターには、4 桁の ID が割り当てられます。

前半の 2 桁は、マスターユニットにおける KVM ポートナンバーを、また、後半の 2 桁はコンピューターが接続しているスレーブユニットにおける KVM ポートナンバーを、それぞれ表しています。例えば、マスターユニットの KVM ポート 2 にスレーブユニットが接続し、このスレーブユニットの KVM ポート 8 にコンピューターが接続されている場合、このコンピューターのポート ID は、02-08 となります。

第4章

OSD 操作

OSD 概要

オンスクリーンディスプレイ(OSD)は、マウスやキーボードの操作が可能なメニューです。このメニューを使うことで、本体に接続されているコンピューターの管理や切替操作を行うことができます。これらの操作はすべて OSD メインメニューから実行します。

OSD ログイン

OSD は 2 段階のユーザーレベル(アドミニストレーター/ユーザー)によるパスワードシステムを組み込んでいます。OSD のメイン画面が表示される前に、ログイン画面が表示され、パスワードの入力が求められます。OSD の初回使用時、またはパスワード機能が未設定の場合は、**[Enter]**キーを押してください。そうすると、OSD のメイン画面がアドミニストレーターモードで表示されます。このモードでログインした場合は、アドミニストレーターとしての権限が与えられるので、すべてのアドミニストレーター/ユーザーの機能にアクセスすることができ、パスワード認証を含む操作設定も自由に定義することができます。パスワード機能が設定されている場合は、OSD へアクセスするのに、正しいアドミニストレーター/ユーザーアカウントとパスワードを入力する必要があります。

OSD ホットキー

選択したポートを表示している際に OSD メニューを起動したい場合は、**[Scroll Lock]**キーを 2 回押すことで OSD メニューを呼び出すことができます。

注意: OSD 表示のホットキーはデフォルトの**[Scroll Lock]**キーから**[Ctrl]**キーに変更できません(詳細は p.48「OSD HOTKEY」参照)。**[Ctrl]**キーの 2 度押しの際は、2 回とも同一**[Ctrl]**キーを使用するようにしてください。(左側を 2 回、もしくは右側を 2 回)

製造番号

「MFG 番号」(製造番号)は、ATEN の工場や技術サポートのスタッフが製品を識別する際に使用する内部的なシリアル番号です。この番号が製品保証に影響することはありません。お使いの製品に関して購入後のサービスが必要な場合には、製品と型番を識別するために、ATEN の営業または技術サポートのスタッフに、この MFG 番号をお伝えください。


OSD メイン画面

OSD メニューを起動すると、以下のような画面が表示されます。



-
- 注意:**
1. 上図は、アドミニストレーターとして OSD メニューにログインした場合の例です。F4 および F6 の各メニューはアドミニストレーターに限定された機能ですので、一般ユーザーとしてログインした場合は、これらのメニューが表示されません。
 2. OSD メニューにアクセスすると、前回、最後にアクセスしたメニューが選択された状態で表示されます。
 3. ポート一覧には、現在ログインしているユーザーがアクセスできるポートだけが表示されます(詳細は p.52「SET ACCESSIBLE PORTS」参照)。
 4. ポート一覧が折りたたまれている場合は、操作対象となるステーションナンバーをクリックするか、そのステーションまでハイライトバーを移動させて右カーソルキーを押してツリーを展開させてください。ポート一覧を折りたたむ場合もこれと同様に、そのステーションまでハイライトバーを移動させて左カーソルキーを押します。
-

OSD メイン画面の項目

項目	説明
PN	この列には現在のシステム構成におけるすべての KVM ポートのポート ID が一覧表示されます。任意のコンピューターに簡単にアクセスするには、ハイライトバーを目的のコンピューターに移動させて[Enter]キーを押してください。
QV	クイックビューポート (p.54「SET QUICK VIEW PORTS」参照)として選択されているコンピューターには、この列に矢印が表示されます。
	ポートに接続されたコンピューターに電源が入っている場合、この列に太陽マークが表示されます。
Name	ポートに名前がつけられている場合は、この列に表示されます(詳細は p.53「EDIT PORT NAMES」参照)。

OSD ナビゲーション

- ◆ OSD 画面を閉じる場合は、OSD 画面の右上に位置する×印をクリックするか、[Esc]キーを押してください。
- ◆ ログアウトする場合は、メイン画面の上に位置する「F8」をクリックするか、キーボードで[F8]キーを押してください。
- ◆ リスト表示を 1 行ずつ上下へ移動する場合は、三角の印(▲▼)をクリックするか、キーボードの上下のカーソルキーを押してください。一画面を超える表示アイテムがある場合は、この操作によってメイン画面がスクロールされます。
- ◆ リスト表示を 1 ページずつ上下へ移動する場合は、画面の上下の矢印(↑↓)をクリックするか、キーボードの[Page Up]キーまたは[Page Down]キーを押してください。一画面を超える表示アイテムがある場合は、この操作によってメイン画面がスクロールされます。
- ◆ ポートを切り替える場合は、選択先のポートをダブルクリックするか、そのポートまでハイライトバーを移動させ[Enter]キーを押してください。
- ◆ これらの操作の実行後は、自動的にメニューが 1 段階上の状態に戻ります。

OSD 機能

OSD 機能は、OSD の設定や管理を行う際に使用します。OSD 機能によって、任意のポートへの直接切替、指定したポートのみを対象にしたスキャン、指定したリストのみを対象にした表示、クイックビューポートの設定、ポートネームの設定、OSD の設定ができます。

OSD の各機能にアクセスするには下記の手順に従って操作してください。

1. メイン画面の上部にあるファンクションの文字を直接クリックするか、そのファンクションに対応したキーをキーボードで押してください。
2. サブメニューが表示されますので、目的のサブメニューを選択しダブルクリックするか、キーボードでそのメニューまでハイライトバーを移動させ、**[Enter]**キーを押してください。
3. **[Esc]**キーを押すと、1 段階上のメニューに戻ります。

F1:GOTO

画面の **F1** をクリックするか、**[F1]**キーを押すと、GOTO メニューを起動します。この GOTO 機能を利用すると、ポートネーム、もしくはポート ID を入力することで、直接ポートを切り替えることが可能です。

- ◆ ポートネームを使用する場合、**[1]**キーを押した後、ポートネームを入力して**[Enter]**キーを押してください。
- ◆ ポートIDを使用する場合、**[2]**キーを押した後、ポートIDを入力して**[Enter]**キーを押してください。

注意: この機能では、ポートネームの一部もしくはポート ID を入力することが可能です。このとき、現在のリスト表示の設定(p.47「F2:LIST」参照)にかかわらず、該当するポートのうち、ユーザーが表示権限を持つもの(p.52「SET ACCESSIBLE PORTS」参照)で、かつ、ポートネームやポート ID の条件に合うものが、すべて画面にリスト表示されます。

選択をしないで OSD 画面メインメニューに戻るには、**[Esc]**キーを押してください。

F2: LIST

このメニューでは、OSD メイン画面で表示するポートの範囲を指定できます。サブメニューの設定項目の詳細は下表をご参照ください。

設定	内容
ALL	現在の機器構成におけるアクセス可能なポートをすべて一覧表示します。
QUICK VIEW	クイックビューポート(p.54 参照)として選択されたポートを一覧表示します。
POWERED ON (電源 ON)	接続されているコンピューターの電源が ON になっているポートを一覧表示します。
QUICK VIEW + POWERED ON (QUICK VIEW + 電源 ON)	クイックビューポート(p.54 参照)として選択され、かつ接続されているコンピューターの電源が ON になっているポートを一覧表示します。

選択したいポートまでハイライトバーを移動して **[Enter]**キーを押してください。そうすると、その項目の前にアイコンが表示され、現在選択中であることを表します。

F3:SET

このメニューでは、アドミニストレーター権限および各ユーザー権限でログインした際の環境設定を行います。それぞれのユーザーのプロファイルは OSD によって保存され、ログイン時に入力されたユーザーネームに基づいて、各自の設定内容が反映されます。

設定を変更される場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. 「F3:SET」の項目をダブルクリックするか、ハイライトバーをこの項目へ移動させ、[Enter]キーを押してください。
2. このアイテムを選択すると、関連するサブメニューが表示されます。これらのサブメニューを選択する場合は、対象となる項目をダブルクリックするか、ハイライトバーをその項目まで移動させて[Enter]キーを押してください。アイコンが付いた項目は、現在選択中の項目であることを表しています。設定項目についての説明は下表をご参照ください。

設定	機能
OSD HOTKEY (OSD ホットキー)	OSD メインメニューを呼び出すホットキーを設定します。 [Scroll Lock] [Scroll Lock] または [Ctrl] [Ctrl] [Ctrl]キーの入力は、動作中のコンピューターの他のプログラムと競合する可能性があるため、デフォルトでは[Scroll Lock]キー 2度押しに設定されています。
PORT ID DISPLAY POSITION (PORT ID 表示ポジション)	画面上のポートID表示位置を設定します。デフォルトでは画面の左上ですが、任意の位置にポートIDを表示することができます。 マウス、カーソルキー、または、[Page Up]、[Page Down]、[Home]、[End]、そして[Num Lock]をOFFにしたテンキーの[5]の各キーを使ってポートIDの表示位置を決めた後、ダブルクリックするか [Enter]キーを押して位置を確定してください。設定が完了すると、「F3:SET」のサブメニュー画面に戻ります。
PORT ID DISPLAY DURATION (PORT ID 表示時間)	ポート切替が行われた後、画面にポートIDを表示する時間を設定します。選択できる内容は、「3 SECONDS」(3秒間(デフォルト))または「ALWAYS OFF」(ポートIDを常に非表示)です。

(表は次のページに続きます)

設定	機能
PORT ID DISPLAY MODE (PORT ID 表示モード)	ポートID 表示方法を選択します。選択できる内容は、「PORT NUMBER + PORT NAME」(ポートナンバーとポートネーム(デフォルト))、「PORT NUMBER」(ポート番号のみ)、「PORT NAME」(ポートネームのみ)です。
SCAN DURATION (スキャン間隔)	オートスキャンモード(p.58 参照)で、各ポートに接続されたコンピューターの画面を表示する時間を設定します。1~255秒までの数値を入力し、 [Enter] キーを押してください。 デフォルトでは5秒に設定されています。また、0秒で設定するとスキャン機能を無効にします。
SCAN-SKIP MODE (スキャン/ スキップモード)	スキップモード(p.56 参照)およびオートスキャンモード(p.58 参照)で、アクセスするコンピューターを選択します。選択できる内容は以下のとおりです。 ALL - アクセスできるすべてのポート(p.52 参照) QUICK VIEW - アクセス可能かつクイックビューポートとして設定されたポート(p.54 参照)のみ POWERED ON (電源 ON) - アクセス可能かつ接続されているコンピューターの電源がONになっているポートのみ QUICK VIEW + POWERED ON(QUICK VIEW + 電源 ON) - アクセス可能でクイックビューポートとして設定され、かつ接続されているコンピューターの電源がONになっているポートのみ デフォルトでは ALL に設定されています。 注意: クイックビューの設定はアドミニストレーターに限定されている機能ですので、これらの項目はアドミニストレーターでログインした場合にのみ表示されます(p.54 参照)。
SCREEN BLANKER (スクリーンブランカー)	コンソールからの入力がないまま、この機能で設定された時間が経過すると、画面はブランクになります。1~30分の時間を入力してから、 [Enter] キーを押します。デフォルトである 0 分で設定すると、この機能を無効にします。

(表は次のページに続きます)

設定	機能
HOTKEY COMMAND MODE (ホットキーモード)	ホットキー操作がコンピューターで動作中のプログラムと競合がある場合などに、ホットキーコマンド機能を有効または無効に切り替えます。
HOTKEY (ホットキー)	ホットキーモードを開始するキー (p.60 参照) を選択できます。[Num Lock] + [-] (デフォルト) または [Ctrl] + [F12] のいずれかを選択してください。
OSD LANGUAGE (OSD 言語)	OSD メニューの表示言語を設定します。選択できる内容は、英語 (デフォルト)、ドイツ語、日本語、中国語 (簡体字/繁体字) です。

F4:ADM

F4 ADM はアドミニストレーターのみが使用できる機能です。この機能により、アドミニストレーターは OSD の操作全体を設定・管理できます。設定を変更するには、画面で「F4:ADM」をダブルクリックするか、[↑][↓]上下の矢印キーを使ってハイライトバーを設定したい項目まで移動させ、[Enter]キーを押してください。

項目を選択すると、F4 機能のサブメニューが表示されます。操作したいメニューをダブルクリックするか、ハイライトバーをそこまで移動させた後、[Enter]キーを押してください。アイコンが付いた項目は、現在選択中の項目であることを表しています。設定方法は下表をご参照ください。

設定	機能
SET USER LOGIN (ユーザーログインの 設定)	<p>この機能でアドミニストレーターおよびユーザーの、ユーザーネーム/パスワードを設定します。</p> <ol style="list-style-type: none">1. アドミニストレーター1名およびユーザー4名のユーザーネームおよびパスワードの設定が可能です。2. ユーザーまたはアドミニストレーターのうち、1つを選択すると、ユーザーネームとパスワードを入力する画面が表示されます。ユーザーネームとパスワードは半角英数字(A~Z, 0~9)、半角記号(* () + :- , ? . /)、半角スペースを使用し、1~16文字で入力してください。3. ユーザーネームとパスワードを入力しパスワードを確定したら、[Enter]キーを押してください。4. 既に入力されたユーザーネームまたはパスワードを消去する場合は、[Backspace]キーを使用してください。入力が完了したら[Enter]キーを押してください。 <p>注意:ユーザーネームおよびパスワードは大文字と小文字を区別しません。ユーザーネームは OSD では大文字で表示されます。</p>

(表は次のページに続きます)

設定	機能
SET ACCESSIBLE PORTS (アクセスポートの 設定)	<p> アドミニストレーターはこの機能でポート別に各ユーザーのアクセス権限をポート毎に定義することができます。 </p> <p> 各ユーザーに対し対象ポートを選び、スペースキーを押して、お使いの環境に適したアクセス権限を選択してください。選択できる内容は、F(フルアクセス)、V(参照のみ)、ブランク(アクセス不可)です。すべてのポートに対して、この操作を繰り返してください。設定が終わったら[Enter]キーを押してください。 </p> <p> デフォルトでは、すべてのユーザーが全ポートに対して F(フルアクセス)に設定されています。 </p> <p> 注意: </p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ブランク設定は、アクセス権が与えられていないことを意味します。そのポートはユーザーのメイン画面におけるリストに表示されません。 ◆ アドミニストレーターは常にすべてのポートに対してフルアクセスの権限を持っています。
SET LOGOUT TIMEOUT (タイムアウトの設定)	<p> コンソールからの入力がないまま、ここで設定された時間が経過すると、そのユーザーはシステムによって自動的にログアウトさせられます。ログアウトした後でコンソールを使用する場合は、再度ログインしなければなりません。 </p> <p> この機能はオペレーターが既にコンピューターにアクセスする必要がなくなったのにログアウトをするのを忘れた場合でも、そのユーザーのログイン状態を解除して、他のオペレーターがそのコンピューターにアクセスできるようにするものです。タイムアウトの値を設定するには、1～180 分までの数値を入力し、[Enter]キーを押してください。デフォルトである 0 分で設定すると、この機能を無効にします。 </p> <p> 注意:この機能は「SET LOGIN MODE」(ログインモードの設定)が無効になっていると、機能しません。詳細は p.55 をご参照ください。 </p>

(表は次のページに続きます)

設定	機能
EDIT PORT NAMES (ポートネームの設定)	<p>製品に接続されているコンピューターの識別を容易にするために、各ポートには名前をつけることができます。アドミニストレーターはこの機能でポートネームの設定、編集、削除をそれぞれ行うことができます。ポートネームを編集するには以下の手順で作業してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 編集したいポートをクリックするか、[↑][↓]上下のカーソルキーを使ってハイライトバーを設定したいポートまで移動させ、[Enter]キーを押します。 2. 新しいポートネームを入力するか、以前のポートネームを訂正または削除してください。ポートネームは、半角英数字(a~z、0~9)、半角記号(* () + : - , ? . /)を使用し最大 12 文字で入力してください。なお、大文字、小文字は区別されません OSD ではポートネームはすべて大文字で表示されます。 3. ポートネームの編集を終えたら、[Enter]キーを押してその変更内容を適用してください。変更を途中で止める際には、[Esc]キーを押してください。
RESTORE DEFAULT VALUES (RESTORE)	<p>この機能は、ポートネーム一覧、ユーザーネーム、パスワードを除いた、OSD メニューのすべての項目を工場出荷時のデフォルト値に戻します (p.81 参照)。</p>
CLEAR THE NAME LIST (ネームリストのクリア)	<p>ポートネームの一覧を消去します。</p>
ACTIVATE BEEPER (ビープ音設定)	<p>ビープ音の設定を行います。Y(有)または、N(無)を選んでください。Yを選ぶと、ポートが変更された時、オートスキャン機能 (p.58 参照) が有効になっている時、OSD メニューで無効な入力がされた時にそれぞれビープ音が鳴ります。</p> <p>デフォルトでは Y(有)に設定されています。</p>

(表は次のページに続きます)

設定	機能
SET QUICK VIEW PORTS (QUICK VIEW PORT の設定)	<p>クイックビューポートとして表示するポートを選択します。この機能はアドミニストレーターのみが利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ クイックビューポートとして、ポートを選択/解除するには、そのポートをダブルクリックするか、[↑][↓]上下のカーソルキーでハイライトバーをそのポートに移動させて、スペースキーを押してください。 ◆ ポートがクイックビューポートとして選択された場合、メイン画面のリストの「QV」項目に矢印が表示されます。クイックビューポートとして選択されていない場合には、何も表示されません。 ◆ LIST メニュー (p.47「F2:LIST」参照) でクイックビューオプションのひとつが選択されている場合、ここで選択されたポートだけがリストに表示されます。 ◆ オートスキャン (p.49 参照) でクイックビューオプションのひとつが選択されている場合、ここで選択されたポートだけがオートスキャンされます。 <p>デフォルトではどのポートもクイックビューポートとして選択されていません。</p>
SET OPERATING SYSTEM (OS の設定)	<p>CL6708MW に接続されているコンピューターの OS の種類を設定します。デフォルトでは WIN(PC 互換機) に設定されています。</p> <p>OS の設定は以下の手順で行ってください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 一覧から、OS を設定するポートを選択してください。 2. スペースキーを押すと、選択できる項目 (WIN、MAC、SUN、OTHER) が順番に切り替わりますので、お使いのコンピューターに適したものを選択してください。 3. 選択し終わったら[Esc]キーを押して操作を完了してください。手順 2 で選択された内容がそのポートに反映されます。
FIRMWARE UPGRADE (ファームウェア アップグレード)	<p>CL6708MW のファームウェアをアップグレードする場合 (p.71 参照) は、この項目であらかじめファームウェアアップグレードモードにしておいてください。</p> <p>このメニューを起動すると、現在お使いのファームウェアのバージョン情報が表示されます。ファームウェアアップグレードモードを有効にする場合は[Y]を、ファームウェアアップグレードモードを有効にせずメニューを終了する場合は[N]をそれぞれ押してください。</p>

(表は次のページに続きます)

設定	機能
SET KEYBOARD LANGUAGE (KEYBOARD 言語)	<p>各ポートに接続されたコンピューターで使用するキーボードの言語の設定を行います。キーボードの言語を設定するには、該当の言語をダブルクリックするか、その項目までハイライトバーを移動させて[Enter]キーを押してください。以下の言語の選択が可能です。</p> <p>AUTO : 自動(デフォルト) ENGLISH(UK) : 英語(イギリス) ENGLISH(US) : 英語(アメリカ) FRENCH : フランス GERMAN(GER.) : ドイツ語(ドイツ) GERMAN(SWISS) : ドイツ語(スイス) GREEK : ギリシア語 HUNGARIAN : ハンガリー語 ITALIAN : イタリア語 JAPANESE : 日本語 KOREAN : 韓国語 RUSSIAN : ロシア語 SPANISH : スペイン語 SWEDISH : スウェーデン語 TRADITIONAL CHINESE : 中国語(繁体字)</p> <p>デフォルトでは AUTO (自動)に設定されています。</p>
SET LOGIN MODE (ログインモー ドの設定)	<p>アドミニストレーターはこの機能を使用して、ユーザーにログインの有無を要求することができます。ログインダイアログボックスが無効の場合、システムはログイン/ログアウト機能を無効にします。システムが再起動した場合でも、ログイン/ログアウト機能は無効のままとなります。</p>
SET COMPUTER VIDEO INPUT	<p>CL6708MW に接続されている各 KVM ポートの映像入力信号を設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ DVI-A ・ DVI-D

F5:SKP

画面の **F5** の項目をクリックするか、**[F5]**キーを押すとスキップモードを起動します。この機能によって、現在表示しているポートから、前後の利用可能なコンピューターのポートに簡単にスキップすることができます。

- ◆ スキップモード切替が利用できるコンピューターの選択は、「**F3 SET**」の機能におけるスキャン/スキップモードで行うことができます (p.49 参照)。
- ◆ スキップモードでは以下のキーで操作を行います。
 - ← 現在のポートから、リスト内の1つ前のポートにスキップします。
 - 現在のポートから、リスト内の1つ後ろのポートにスキップします。

注意: スキップする際は、スキャン/スキップモード (p.49 参照) で選択できる前後のコンピューターにしかスキップできません。

- ◆ ポートがスキャン/スキップモードで選択されている場合、選択されたポートのポート ID の前に、右向きまたは左向きの三角の印が表示されます。
- ◆ スキップモードが有効な場合は、コンソールが正常に機能しません。コンソールから操作を行いたい場合は、スキップモードを終了する必要があります。
- ◆ スキップモードを終了する際には、**スペースキー**、または**[Esc]**キーを押してください。

F6:BRC

ブロードキャストモードはアドミニストレーターのみが使用できる機能です。画面の **F6** の項目をクリックするか、**[F6]**キーを押すと、ブロードキャストモード(BRC)を起動します。この機能を使用すると、コンソールで入力したコマンドを、CL6708MW の配下にある利用可能なすべてのコンピュータに対して発行して、同時に実行することができます。

これは、システム全体のシャットダウンやソフトウェアのインストール/アップデート作業など、複数のコンピュータで同じ操作を繰り返し行う必要があるユーザーには特に便利な機能です。

- ◆ BRC モードが有効な場合、現在選択中のポートIDの前にスピーカーマークが表示されます。
- ◆ BRC モードが有効な場合、マウスが正常に機能しません。マウスをお使いになる場合は BRC モードを終了する必要があります。
- ◆ BRC モードを終了するには、OSD メニューを OSD 起動用ホットキーで起動し、**F6** のフィールドをクリックするか、**[F6]**キーを押してください。

F7:SCAN

画面の **F7** の項目をクリックするか、**[F7]**キーを押すと、オートスキャンモードを起動します。この機能を利用すると、手動でポート切替を行うことなく、稼働中のコンピューターを一定の時間間隔で自動的に切り替えて、監視することができます。

- ◆ オートスキャン時に表示するコンピューターは、「**F3:SET**」(p.48 参照)メニューのスキャンモード設定で選択します。
- ◆ 各ポートを表示する時間間隔の設定は、「**F3:SET**」の「SCAN DURATION」(p.49 参照)で行います。任意の場所でスキャンを停止したい場合はスペースキーを押してください。
- ◆ スキャン中に選択したポートが、コンピューターが接続されていないポート、もしくは電源の入っていないコンピューターが接続されているポートである場合、モニターには何も表示されず、マウスまたはキーボードの入力に対しても何も反応しません。この場合、「SCAN DURATION」で設定された時間の経過後、オートスキャンは次のポートに切り替わりますので、しばらくお待ちください。
- ◆ オートスキャンモード中にアクセスされているポートは、画面上のポート ID の前に[S]マークが表示されています。
- ◆ オートスキャン中、通常のキーボード/マウス操作は無効になります。入力の必要がある場合は、スペースキーを押してオートスキャンモードを解除してください。
- ◆ 任意のポート表示で一時停止したい場合は、キーボードで[P]キーを押すか、マウスを左クリックしてください。詳細については p.63 をご参照ください。
- ◆ オートスキャンモードの解除は、スペースキーもしくは[Esc]キーを押してください。

F8:LOUT

画面の **F8** の項目をクリックするか**[F8]**キーを押すと、OSD メニューからログアウトし、コンソール画面がブランクになります。これはOSDメインメニューを表示している間に**[Esc]**キーを押し、OSDを閉じる操作とは異なります。**[Esc]**キーを押した場合は、ログアウトせず OSD メニューを閉じただけです。OSD ホットキーを押せば再度 OSD メニューにアクセスできるのに対し、この機能を使うと OSD からログアウトしますので、再度アクセスする場合は、ログインからやり直さなければなりません。

-
- 注意:**
1. OSD からログアウト後に再び OSD を表示すると、OSD メインメニュー以外はブランク画面が表示されますので、操作を続けたい場合はユーザーネームとパスワードを入力する必要があります。
 2. ログアウト後に再ログインして OSD を表示し、OSD メニューからポートを選択しない状態で**[Esc]**キーを使って OSD を閉じると、ポートが選択されていない状態になり、画面には Null Port 無効ポートメッセージが表示されます。このとき、OSD 起動ホットキーを使うことで OSD 画面を表示することができます。
-

第5章

キーボードによるポート操作

ホットキーによるポート操作

ホットキーによるポート操作とは、キーボード入力から直接コンピューターを切り替えて KVM 操作ができるようにするものです。CL6708MW では、ホットキーを使って以下のようなポート操作ができます。

- ◆ アクティブポートの選択
- ◆ オートスキャンモードによる切替
- ◆ スキップモードによる切替
- ◆ コンピューターのキーボード/マウス リセット

ホットキーモードでは以下の設定も可能です。

- ◆ ビープ音の設定
- ◆ クイックホットキーの設定
- ◆ OSD ホットキーの設定
- ◆ ポート OS の設定
- ◆ OSD デフォルト値のリストア

ホットキーモードの起動

すべてのホットキー操作を行う前には、必ずホットキーモードを起動します*。ホットキーモードは、次の2種類の方法で起動することができますが、一度に使用できるのは片方だけです。

[NumLock]キーとマイナスキーの組み合わせを使用する場合

1. [Num Lock]キーを押したままにしてください。
2. [-](マイナス)キーを押して離してください。
3. [Num Lock]キーから指を離してください。

この操作は[Num Lock] + [-]と表記されます。

注意: ホットキーコマンドモード機能を有効にし、正しいホットキーを入力していることを確認してください。詳細は p.50 をご参照ください。

[Ctrl]キーと[F12]キーの組み合わせを使用する場合

1. [Ctrl]キーを押したままにしてください。
2. [F12]キーを押して離してください。
3. [Ctrl]キーから指を離してください。

この操作は[Ctrl] + [F12]と表記されます。

ホットキーモードが有効である場合、次の状態になります。

- ◆ 画面にコマンドラインが表示されます。コマンドラインのプロンプトには青地に白い文字で「Hotkey:」と表示され、入力したホットキー情報がこれに続いて表示されます。
- ◆ 通常のキーボード/マウス操作はできません。後続のセクションで説明するホットキーに関連したキーだけが入力可能です。

[Esc]キーを押すと、ホットキーモードが解除できます。

アクティブなポートの選択

各 KVM ポートにはポート ID が割り当てられています (p.41「ポート ID の割り当て」参照)。接続されたコンピューターのポート ID をホットキーで指定すると、直接そのコンピューターにアクセスすることができます。操作方法は下記のとおりです。

1. 以下のどちらかを入力してホットキーモードを起動してください。
[Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [F12]
2. ポート ID を入力してください。
ポート ID は入力すると、コマンドラインに表示されます。入力を間違えた場合は、[Backspace] キーで消去してください。
3. [Enter] キーを押してください。
[Enter] キーの入力後、KVM 操作がそのコンピューターへと切り替わり、ホットキーモードは自動的に解除されます。

注意: ホットキーモードで無効なスイッチやポート ID を入力した場合、ポートは切り替わりません。有効なポート ID を入力するか、ホットキーモードを解除するまでホットキーコマンドラインは画面に表示されたままになります。

オートスキャンモード

オートスキャン機能は、「SCAN-SKIP」モードでアクセス可能に設定された KVM ポートを、一定の時間間隔で自動的に切り替えることができるので、コンピューターの動作を自動的に監視することができます。詳細については p.49「SCAN-SKIP MODE」をご参照ください。

オートスキャンの起動

オートスキャンを起動するには、下記のホットキーを入力してください。

1. 以下のどちらかを入力して、ホットキーモードを起動してください。
[Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [F12]
2. [A]キーを入力した後、[Enter]キーを入力してください。ホットキーモードは自動的に解除され、オートスキャンが起動します。

- ◆ オートスキャンモード中に任意のポートで一時停止したい場合は、キーボードで[P]キーを押すか、マウスを左クリックしてください。オートスキャンモードの一時停止中は、コマンドラインに「Auto Scan: Paused」と表示されます。

オートスキャンモード中に、あるポートのコンピューターを監視し続けたい場合、オートスキャンモードを解除するより、この一時停止機能を利用したほうが便利です。一時停止した後、オートスキャンモードを再開すると、その一時停止したコンピューターからオートスキャンを再開するのに対し、オートスキャンモードを解除してから再び開始させると、接続された最初のコンピューターからオートスキャンを始めるからです。

オートスキャンを再開するにはキーボードで任意のキーを押すか、マウスを左クリックしてください。一時停止したコンピューターからオートスキャンが再開します。

- ◆ オートスキャンモードの動作中は、通常のキーボード/マウス操作はできません。この場合は、オートスキャンモードに対応したキー入力しかできません。通常のキーボード/マウス操作を再開するには、オートスキャンモードを解除してください。
3. オートスキャンモードを解除するには、[Esc]キーまたは[スペースキー]を押してください。オートスキャンモードを解除すると、オートスキャンを中止します。

スキップモード

この機能を使うと、監視するコンピューター間を手動で切り替えることができます。一定の時間間隔で自動的に切り替わるオートスキャン機能と違い、この機能では任意のポートを任意の時間で監視することができます。スキップモードを開始するには、以下のホットキーを入力してください。

1. 以下のどちらかを入力して、ホットキーモードを起動してください。

[Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [F12]

2. [矢印]キーのいずれかを入力してください。

- ◆ [矢印]キーは以下の表に描かれた矢印キーを指します。キーボードの矢印キーを入力した後、自動的にホットキーモードは解除され、下表の方法で切り替えたポートからスキップモードが開始します。

←	先頭にあるアクセス可能なポートにスキップします (アクセスできるポートに関しては p.49「SCAN-SKIP MODE」を参照)。
→	アクセス可能な次のポートにスキップします。

- ◆ スキップモード有効時は、矢印キーを押してポートをスキップしていくことができるので、再度、[Num Lock] + [-]などのホットキーを入力する必要はありません。
- ◆ スキップモード有効時は、通常のキーボード/マウス操作はできません。この場合は、スキップモードに対応したキーのみが入力できます。通常のキーボード/マウス操作を行うには、スキップモードを解除しなければなりません。

3. スキップモードを解除するには、[Esc]キーまたは[スペースキー]を押してください。

キーボード/マウスのリセット

現在選択しているポートに接続されたコンピューターでキーボードまたはマウスが動作しなくなった場合は、そのコンピューターに対しキーボード/マウスをリセットしてください。この機能は、対象のコンピューターでキーボードやマウスを外して接続しなおすのと基本的に同じです。キーボード/マウスをリセットするには、以下のホットキーを入力してください。

1. 以下のどちらかを入力して、ホットキーモードを起動してください。

[Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [F12]

2. [F5]キーを押してください。

[F5]の入力後、ホットキーモードは自動的に解除され、KVM ポートに接続されたコンピューターでキーボード/マウスを再び操作できるようになります。[F5]の入力後でもコンピューターでキーボード/マウス操作ができない場合は、コンソールキーボードおよびマウスのリセットを実行してください。

ホットキービープ音の設定

ビープ音 (p.53「ACTIVATE BEEPER」参照) は下記のホットキーで ON または OFF にできます。ビープ音の設定を行うには、以下のホットキーを入力してください。

1. 以下のどちらかを入力して、ホットキーモードを起動してください。

[Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [F12]

2. [B]キーを押してください。

[B]キーを押した後、ビープ音が ON または OFF になります。コマンドラインに 1 秒間「Beeper On」または「Beeper Off」と表示された後、そのメッセージは消え、自動的にホットキーモードを解除します。

クイックホットキーの切替

クイックホットキー (p.50「HOTKEY」参照) は、[Num Lock]+[-]または[Ctrl]+[F12]のいずれかに設定することができます。このキーを変更するには以下のホットキーを入力してください。

1. 以下のどちらかを入力して、ホットキーモードを起動してください。

[Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [F12]

2. [H]キーを押してください。

[H]キーの入力後、コマンドラインに「HOTKEY HAS BEEN CHANGED」と1秒間表示された後、そのメッセージは消え、自動的にホットキーモードが解除されます。

OSD ホットキーの設定

OSD にアクセスする際に使用するホットキー (p.48「OSD HOTKEY」参照) は、[Scroll Lock][Scroll Lock]または[Ctrl][Ctrl]のいずれかに変更することができます。OSD ホットキーを変更するには、以下のホットキーを入力してください。

1. 以下のどちらかを入力して、ホットキーモードを起動してください。

[Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [F12]

2. [T]キーを押してください。

[T]キーの入力後、コマンドラインに「HOTKEY HAS BEEN CHANGED」と1秒間表示された後、そのメッセージは消え、自動的にホットキーモードが解除されます。

ポート OS の設定

ポート OS はそのポートに接続しているコンピューターの OS に合わせて変更することができます。ポート OS を変更するには、以下のホットキーを入力してください。

1. 以下のどちらかを入力して、ホットキーモードを起動してください。

[Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [F12]

2. 下表に示された[ファンクション]キーのいずれかを押してください。

ファンクションキー	説明
F1	ポート OS を Windows に設定します。
F2	ポート OS を Mac に設定します。
F3	ポート OS を Sun に設定します。

ファンクションキーの入力後、ホットキーモードは自動的に解除されます。

デフォルト値のリストア

これはアドミニストレーターに限定された操作です。下記の手順で操作を行って CL6708MW のホットキーをデフォルト設定 (p.53「RESTORE DEFAULT VALUES」参照) に戻すことができます。デフォルト値に戻すには、以下のホットキーを入力してください。

1. 以下のどちらかを入力して、ホットキーモードを起動してください。

[Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [F12]

2. [R]キーを押してください。

3. [Enter]キーを押してください。

[Enter]キーの入力後、コマンドラインに「RESET TO DEFAULT SETTING」と3秒間表示された後、そのメッセージは消え、自動的にホットキーモードが解除されます。









ホットキーモード一覧表

ホットキーモード	ホットキー	説明
[Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [F12]	[PN] [Enter]	KVM 操作を、対応するポートID のコンピューターへ直接切り替えます (PN=ポート番号)。
	[A] [Enter]	オートスキャンモードを起動します。デフォルトである 5 秒間隔でポート間の表示を順次切り替えます。
	[A] [n] [Enter]	オートスキャンを n 秒間隔で行います (n=1~255 秒)。
	[H]	ホットキーモード起動キーをデフォルトの[Num Lock]+[-]と代替キーの[Ctrl]+[F12]の間で交互に変更します。
	[T]	OSD 起動キーをデフォルトの[Scroll Lock][Scroll Lock]から代替キーの[Ctrl][Ctrl]へと交互に変更します。
	[F1]	ポートの OS を Windows に設定します。
	[F2]	ポートの OS を Mac に設定します。
	[F3]	ポートの OS を Sun に設定します。
	[F5]	対象のコンピューターでキーボード/マウスをリセットします。
	[B]	ビープ音を ON/OFF に切り替えます。
	[R] [Enter]	ホットキーの設定をデフォルト値に戻します。p.53「RESTORE DEFAULT VALUES」を参照してください。
	[D]	ビデオダイナシンクを起動します。これはブート時のディスプレイ問題を回避し、ポート間を切り替えた際の解像度を最適化する ATEN の独自技術です。
	[←]	スキップモードで、リストにある前のコンピューターへとスキップします。
[→]	スキップモードで、リストにある次のコンピューターへとスキップします。	
[Esc]または [スペースキー]	ホットキーモードを解除します。	

第6章 キーボードエミュレーション

Mac キーボード



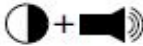




キーマッピングのエミュレーション機能により、PC 互換(101/104 キー)キーボードは Mac キーボードのファンクションキーを使用することができます。エミュレーションマッピングは下表をご参照ください。

PC 互換キーボード	Mac キーボード
[Shift]	Shift
[Ctrl]	Ctrl
	
[Ctrl] [1]	
[Ctrl] [2]	
[Ctrl] [3]	
[Ctrl] [4]	
[Alt]	Alt
[Print Screen]	F13
[Scroll Lock]	F14
	=
[Enter]	Return
[Backspace]	Delete
[Insert]	Help
[Ctrl] 	F15

注意: 上記の組み合わせでキーを入力する場合には、最初に入力するキー（[Ctrl]キー）を離してから、次のキーを入力するようにしてください。

Sun キーボード

[Ctrl]キーとほかのキーを組み合わせることで、PC 互換(101/104 キー)キーボードからキーマッピングのエミュレーション機能を利用して Sun のキーボードのファンクションキーを使用することができます。該当する機能については下表をご参照ください。

PC 互換キーボード	Sun キーボード
[Ctrl] [T]	Stop
[Ctrl] [F2]	Again
[Ctrl] [F3]	Props
[Ctrl] [F4]	Undo
[Ctrl] [F5]	Front
[Ctrl] [F6]	Copy
[Ctrl] [F7]	Open
[Ctrl] [F8]	Paste
[Ctrl] [F9]	Find
[Ctrl] [F10]	Cut
[Ctrl] [1]	
[Ctrl] [2]	
[Ctrl] [3]	
[Ctrl] [4]	
[Ctrl] [H]	Help
	Compose
	

注意: 上記の組み合わせでキーを入力する場合には、最初に入力するキー ([Ctrl]キー)を離してから、次のキーを入力するようにしてください。

第7章

ファームウェアアップグレード ユーティリティ

はじめに

Window ベースのファームウェアアップグレードユーティリティを使用して、CL6708MW のファームウェアを自動的にアップグレードさせることができます。アップグレードのプログラムは各デバイスに対する個別のファームウェアアップグレードパッケージの一部として提供されます。

CL6708MW の最新ファームウェアが利用可能になると、ATEN の Web サイトにファームウェアアップグレードパッケージとして公開されます。弊社 Web サイト(<http://www.aten.com/jp/ja/>)にて、最新のファームウェアや関連情報を定期的にご確認ください。

ファームウェアアップグレードパッケージのダウンロード

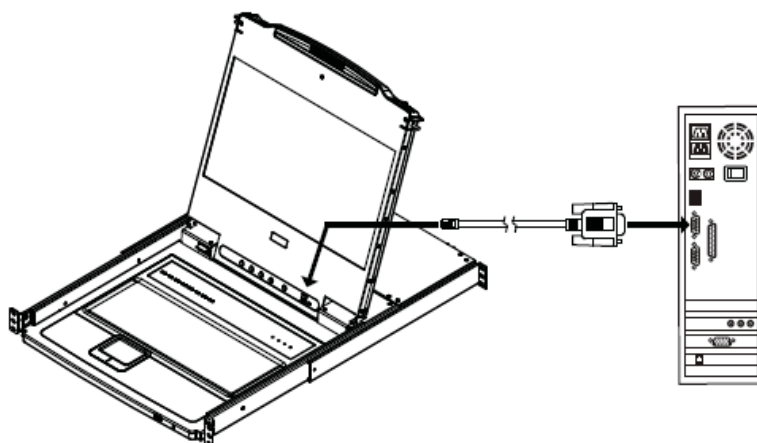
ファームウェアのアップグレード作業を実施するために、シリアルポート(COM ポート)が搭載された PC か、弊社製 USB-シリアルコンバーター「UC-232A」等と PC をご準備ください。ファームウェアアップグレードパッケージをダウンロードするには、以下の手順に従ってください。

1. 製品に接続されていないコンピューターから弊社 Web サイト(<http://www.aten.com/jp/ja/>)にアクセスし、CL6708MW の最新ファームウェアアップグレードパッケージをダウンロードしてください。ダウンロードは、1) 製品ページ内の「サポートとダウンロード」メニューからアクセス、または、2) ホームページ右上に表示される「サポートとダウンロード」→「ダウンロード」→「他の製品の資料をダウンロードする」に型番を入力して検索する方法で行えます。
2. インストールしたいファームウェアアップグレードパッケージ(通常は最新版)を選択し、このパッケージをお使いのコンピューターにダウンロードしてください。

ファームウェアアップグレードの準備

ファームウェアアップグレードの準備をするには、以下の手順に従ってください。

1. 本製品に同梱されている「ファームウェアアップグレードケーブル」を使用して、コンピューターの COM ポートと本製品の「ファームウェアアップグレードポート」を接続してください。

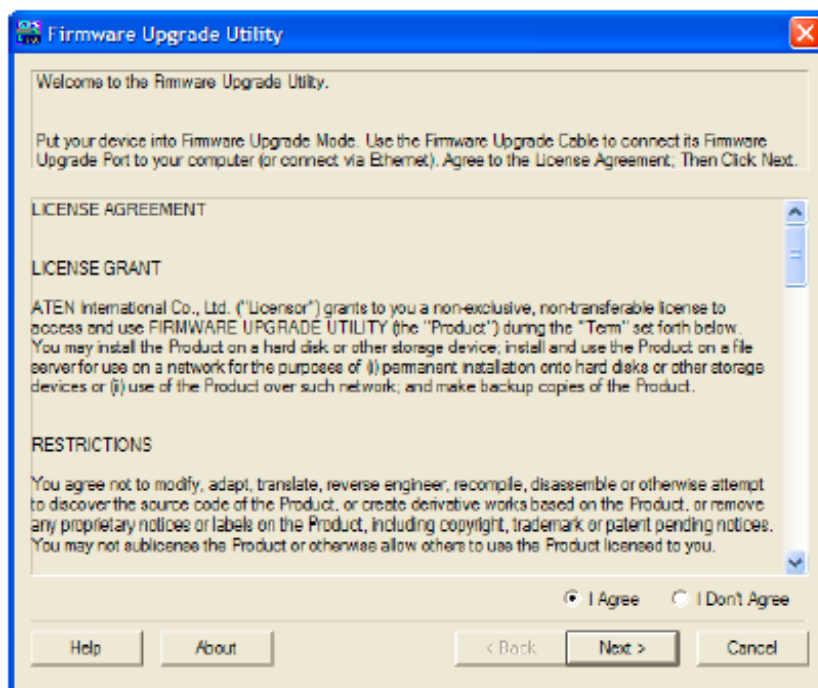


2. 本製品に接続されているコンピューターすべてをシャットダウンしてください。
3. KVM スイッチのコンソールでアドミニストレーターとして OSD にログイン (p.42 参照) してから「F4: ADM」機能を選択してください。
4. 下にある「FIRMWARE UPGRADE」までスクロールしてください。それから[Enter]キーを押した後、[Y]キーを押して「ファームウェアアップグレード」モードを起動してください (p.54 参照)。

アップグレードの開始

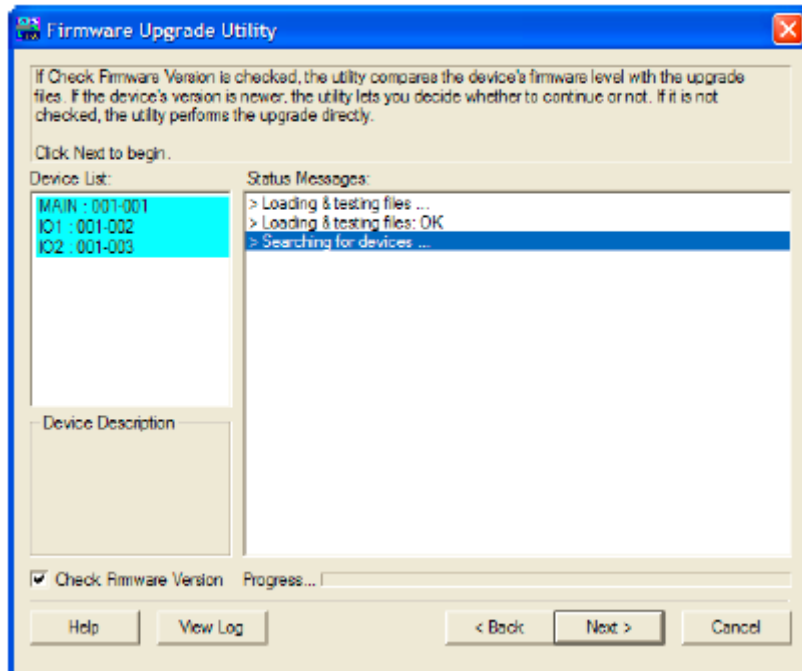
ファームウェアをアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. 前のページに記載された手順でアップグレードの準備を整えたら、作業用 PC にダウンロードしたプログラムのアイコンをダブルクリックして、実行してください。
「Firmware Upgrade Utility」の初期画面が表示されます。



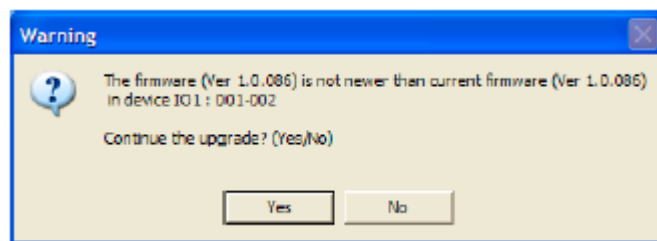
注意: 本章で描かれている画面は参考用です。実際の「ファームウェアアップグレードユーティリティ」の画面上の文言やレイアウトはマニュアルの図とは多少異なることがあります。

2. ライセンス使用許諾契約を確認し、同意する場合は「I Agree」ボタンを有効にしてください。
3. 「Next」ボタンをクリックしてください。ファームウェアアップグレードユーティリティのメイン画面が表示されます。アップグレード可能なデバイスが、「Device List」に一覧表示されます。



4. 「Next」をクリックしてアップグレードを実行してください。

「Check Firmware Version」を選択すると、ユーティリティーはデバイスのファームウェアとアップグレードファイルのバージョンを比較します。デバイスのファームウェアのバージョンがアップグレードファイルのバージョンよりも新しければ、ダイアログボックスにその旨が表示されるので、このままアップグレードを続けるか、キャンセルするかを選択してください。

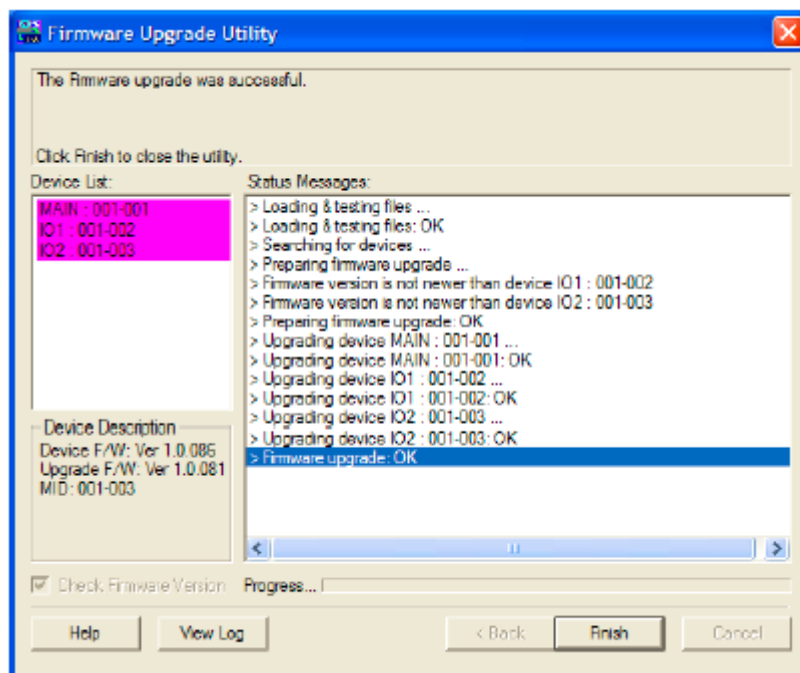


「Check Firmware Version」を有効にしなかった場合、ユーティリティーはデバイスのファームウェアとアップグレードファイルのバージョンを比較せずにそのままインストールします。

アップグレードの進行具合は「Status Message Panel」に、また進捗状況は「プログレスバー」にそれぞれ表示されます。

アップグレード成功

アップグレードが完了すると、アップグレードが成功したことを表す画面が表示されます。



「Finish」をクリックして、ファームウェアアップグレードユーティリティを終了してください。

アップグレード失敗

「アップグレード成功」の画面が表示されない場合、アップグレードに失敗したことを意味します。その場合、どのように続けるかは、次項の「ファームウェアアップグレードのリカバリー」を参照してください。

ファームウェアアップグレードのリカバリー

ファームウェアアップグレードのリカバリー(復元)が必要な場合には以下の 3 つの状況があります。

- ◆ ファームウェアアップグレードを手動で中止した場合。
- ◆ メインボードのファームウェアアップグレードに失敗した場合。
- ◆ I/O ファームウェアアップグレードに失敗した場合。

ファームウェアアップグレードをリカバリーするには、以下の手順に従ってください。

1. CL6708MW の電源を切ってください。
2. ファームウェアアップグレードケーブルをファームウェアアップグレードポートに接続してください。
3. ファームウェアアップグレードリカバリースイッチを「RECOVER」の位置にスライドさせてください。
4. CL6708MW に電源を入れ、アップグレードを再度実施してください。
5. CL6708MW のアップグレードに成功したら、電源を切り、ファームウェアアップグレードリカバリースイッチを元の「NORMAL」の位置に戻してください。
6. CL6708MW にカスケード接続された KVM スイッチの場合は、このユニットをカスケード接続の機器構成にセットアップしなおしてください。
7. CL6708MW の電源を入れてください。

注意: ファームウェアのリカバリーを行ってもシステムの復帰ができない場合は、製品のご購入元か、弊社テクニカルサポート窓口までお問い合わせください。

付録

製品仕様

コンピューター接続数	
ダイレクト	8
最大	64(カスケード接続)
コンピューター側インターフェース	キーボード/マウス:USB
セカンドコンソール側インターフェース	キーボード/マウス:USB
ポート選択	OSD、ホットキー、プッシュボタン
コネクタ	
KVM ポート	キーボード/マウス:USB タイプ B メス×8 モニター:DVI-I メス×8 スピーカー:ステレオミニジャック×8
セカンドコンソールポート	キーボード:USB タイプ A メス×1 マウス:USB タイプ A メス×1 モニター:DVI-I メス×1 スピーカー:ステレオミニジャック×1
セカンドマウスポート	USB タイプ A メス×1
ファームウェアアップグレード	RJ-11×1
電源	3 極 AC 電源ソケット(IEC60320 C14)×1
スイッチ	
リセット	ピンホール型スイッチ×1
電源	ロッカースイッチ×1
ファームウェアアップグレード	スライドスイッチ×1
LCD 調節	プッシュボタン×4
LCD 電源	プッシュボタン×1
ポート選択	プッシュボタン×8

(表は次のページに続きます)

LED	
オンライン	オレンジ×8
選択	グリーン×8
電源	KVM 電源:ダークグリーン×1 LCD 電源:オレンジ×1
Lock	Num Lock:グリーン×1 Caps Lock:グリーン×1 Scroll Lock:グリーン×1
エミュレーション	
キーボード/マウス	USB
パネル仕様	
画面サイズ	17.3 インチ
ピクセルピッチ	0.1989 mm × 0.1989 mm
対応色	262144 色
コントラスト比	650:01:00
輝度	300 cd/m ²
応答時間	8 ミリ秒
視野角	140° (水平)、120° (垂直)
解像度	最大 1,920×1,080@60Hz、DDC2B 準拠
スキャンインターバル	1~255 秒(ユーザー設定)
最大電源仕様	AC 100~240V、50/60Hz、1A (日本仕様は PSE 対応 3P/100V 電源コードを同梱)
消費電力	29.26 W
動作環境	
動作温度	0~40℃
保管温度	-20~60℃
湿度	0~80% RH、結露なきこと
ケース	
ケース材料	メタル、プラスチック
重量	12.70 kg (27.97 lb)
サイズ(W×D×H)	480×690×44 mm

(表は次のページに続きます)

同梱品	USB DVI-D KVM ケーブル(型番:2L-7D02U) ×2 電源ケーブル×1 ファームウェアアップグレードケーブル×1 クイックスタートガイド×1 イージーセットアップラックマウントキット(ショート or ロング)×1
対応 KVM ケーブル	DVI-D(シングルリンク)KVM ケーブル 2L-7D02U(1.8m) 2L-7D03U(3m) 2L-7D05U(5m) USB DVI-I(シングルリンク)KVM ケーブル 2L-7D02UI(1.8m) 2L-7D03UI(3m)

接続台数一覧表

下表は CL6708MW およびカスケード接続する KVM スイッチの合計と、そこから操作できるコンピューターの台数を示しています。

CL6708MW に対応 8 ポート KVM スイッチを接続した場合

台数	コンピューター
1	1～8
2	9～16
3	17～24
4	25～32
5	33～40
6	41～48
7	49～56
8	57～64

対応 KVM スイッチ

下表は CL6708MW と互換性のある KVM スイッチと、その拡張方法を一覧にしたものです。この KVM スイッチは別途お求めいただく必要がございます。詳細については、弊社販売代理店までお問い合わせください。

拡張方法	シリーズ	型番	製品名
カスケード	ATEN	CS1768	8 ポート USB DVI KVM スイッチ

工場出荷時におけるデフォルト設定

工場出荷時におけるデフォルト設定は下表のとおりです。

設定	デフォルト値
OSD ホットキー	[Scroll Lock] [Scroll Lock]
ポート ID の表示位置	左上
ポート ID の表示時間	3 秒
ポート ID の表示モード	ポートナンバーとポートネーム
オートスキャンインターバル	5 秒間
スキャン-スキップモード	すべて
スクリーンブランカー	0 (無効)
ログアウトタイムアウト	0 (無効)
ビープ音	Y (有効)
アクセス可能なポート	全ユーザーが全ポートに対して F (フルアクセス)

トラブルシューティング

操作上の問題は様々な理由によって起こります。問題が発生したら、まず、すべてのケーブルが各ポートに正しく接続されていることを確認してください。

また、製品のファームウェアをアップグレードさせることによって、以前のバージョンがリリースされてから発見されたり、解決されたりした問題を解決できることがあります。現在お使いのバージョンが最新のものではない場合は、最新版のファームウェアを適用することを推奨します。詳細は、p.71「ファームウェアアップグレードユーティリティ」をご参照ください。

問題	考えられる原因	解決方法
動作が不安定である。	供給電力が不十分です。	製品に同梱されている電源ケーブルが本体に正しく接続されており、機能しているかどうかご確認ください。
セカンドコンソールモニターにゴーストが映る。	セカンドコンソールモニターと CL6708MW との距離が離れすぎています。	現在のものより短く、適切な長さのケーブルに交換してください。
キーボードから入力した一部の文字が正しく表示されない。	ポートのキーボードレイアウト設定がご使用のキーボードと合っていません。	ご使用のキーボードレイアウトに合うように、CL6708MW 側でポートのキーボードレイアウト設定を変更してください。
Sun コンピューターを操作するのに、Sun の外部キーボードの特殊キーが使用できない。	キーボードエミュレーションが正しくありません。	Sun キーボード機能を利用する場合には、Sun キーボードエミュレーション機能 (p.70 参照) を使用してください。